保育科
講義概要

講義概要を利用するにあたって

この講義概要（シラバス）は、開講される科目名、授業の担当教員名、到達目標、授業の概要、進行計画、テキスト・参考文献、単位認定条件等を詳細に示しています。

シラバスを活用して授業科目の内容を十分に理解して授業時間割を組み、授業に臨んでください。

1．　シラバスは、生活福祉情報科共通教育科目・専門教育科目、保育科共通教育科目・専門教育科目の順で掲載されています。

2．　履修科目は、取得希望する免許・資格により異なるので、各学科の履修表を参照してください。

3．　履修する科目は、講義概要・授業時間割を見ながら履修届を作成し、登録してください。履修登録をしていない科目を受講しても単位は認定されません。

4．　試験方法としては定期試験、小テストなどで行います。成績評価基準については基本的に試験と出席状況などを総合的に評価しますが、授業の形態によっては毎回の授業での発表と課題提出など、科目によって異なります。また、科目担当者によっても異なるので各科目のシラバスを参照してください。

【参　考】

通　　年　：　１年間を通じて講義を行う授業科目
前　　期　：　前学期のみ講義を行う授業科目
後　　期　：　後学期のみ講義を行う授業科目
集中講義　：　夏季及び冬季休暇中に集中的に講義を行う授業科目

講　　義　：　教員が学生に対し、当該科目の専門的な知識・内容などについて説明する授業形式
演　　習　：　教員の講義とともに、学生も討議・研究発表等を行いつつ指導を受ける授業形態
実　　技　：　学んだ知識をもとに演技を行う授業形態
実　　習　：　学んだ知識をもとに実施について学習する授業形態

保育科　講義概要目次

共通教育科目	授業コード
英会話Ⅰ	201
生涯スポーツ・健康科学	202
日本国憲法	203
情報処理入門	204
国語表現法	205
自然環境	206
生命科学	207
キャリアデザインⅠ	208

専門教育科目	授業コード
社会福祉	209
子ども家庭福祉	210
多文化共生保育	211
保育原理	212
社会的養護Ⅰ	213
保育実習	214
保育実習事前事後指導	215
保育実習Ⅱ	216
保育実習Ⅲ	217
保育実習事前事後指導Ⅱ	218
保育実習事前事後指導Ⅲ	219
保育の心理学	220
青年心理学	221
乳幼児心理学	222
子どもの保健	223
子どもの健康と安全	224
子ども家庭支援論	225
子どもの食と栄養	226
保育内容総論	227
乳児保育Ⅰ	228
乳児保育Ⅱ	229
障害児保育	230
社会的養護Ⅱ	231
ピアノⅠ	232
ピアノⅡ	233
ピアノⅢ	234
実技演奏	235
言語表現	236
児童文化	237
保育科基礎演習	238
保育者論	239
保育実践演習	240
子育て支援	241
子ども家庭支援の心理学	242
幼児と健康	243
幼児と言葉	244
幼児と音楽表現	245
幼児と造形表現	246
絵画の発達	247
現代社会と教育	248
子どもの音楽	249
造形とあそび	250
教職概論	251
教育原理	252
教育心理学	253
教育相談	254
教職実践演習	255
教育実習	256
教育実習事前事後指導	257
健康（指導法）	258
人間関係（指導法）	259
環境（指導法）	260
言葉（指導法）	261
造形表現（指導法）	262
音楽表現（指導法）	263
劇あそび（指導法）	264
教育課程総論	265
教育方法論	266
幼児と人間関係	267
幼児と環境	268
幼児への特別な支援	269

授業科目名:英会話 Ⅰ	開講時期：1年・通年	授業区分：幼免・保育士必修
担当者名：非常勤講師　松原留美	授業形態：演習	授業回数：30回
授業コード：201	単位数：2単位	オフィスアワー：授業終了後
ナンバリング：DH11101	該当DP：1-①②、3-②	

授業の到達目標及びテーマ
日常生活の中でよく使われる英語表現を学び、自分自身の事を４技能（書く、読む、話す、聞く）で表現する事ができる。
授業の概要
この授業では保育園や幼稚園で必要となる英語を学んでいきますが、園での先生と園児または保護者とのやりとりは、日常に関するものがほとんどです。4技能をバランスよく学習し、身近な英語表現を知る事によって自分自身の英語力を高めていきましょう。
事前学習及び事後学習
授業毎に表現や単語の小テストを行います。
授業計画
1 イントロダクション
2 挨拶・自己紹介
3 園内の挨拶
4 登園時の会話
5 工作時間の会話
6 園外散歩での会話
7 園庭での会話
8 中間テスト　保護者からの相談
9 お昼寝時間の会話
10 降園時の会話
11 園行事予定についての会話
12 ネイティブとの打ち合わせ
13 体調不良の園児との会話
14 保護者との電話
15 最期の日の会話
16 イントロダクション
17 挨拶・自己紹介
18 園内の挨拶
19 登園時の会話
20 工作時間の会話
21 園外散歩での会話
22 園庭での会話
23 中間テスト　保護者からの相談
24 お昼寝時間の会話
25 降園時の会話
26 園行事予定についての会話
27 ネイティブとの打ち合わせ
28 体調不良の園児との会話
29 保護者との電話
30 最後の日の会話
定期試験　実施する

学生に対する評価
課題：40%、小テスト：30%、試験結果：30% （試験の内容は、筆記試験(60%)とスピーキングの口頭試験(40%)）
テキスト
土屋麻衣子、『Happy English for Childcare』、金星堂、2015年、2322円
参考書・参考資料など
講師作成のハンドアウトを配布します。

授業科目名:英会話Ⅰ	開講時期：1年・通年	授業区分：幼免・保育士必修
担当者名：非常勤講師　フィリップス・グレゴリー	授業形態：演習	授業回数：30回
授業コード：201	単位数：2単位	オフィスアワー：授業終了後
ナンバリング：DH11101	該当DP：1-①②、3-②	

授業の到達目標及びテーマ
英会話だけでなく外国の習慣や文化をより身近に感じ、英語に興味を持ってもらう。
授業の概要
中学・高校で学んだ英語の復習をしながら、英語での会話練習を行います。単語やイディオム（熟語）を使って英語で表現する癖をつけていただきます。文法や発音も大切ですが、「楽しくなければ英語ではない」というつもりで授業に臨んでください。
事前学習及び事後学習
中学・高校で学んだ基礎的な語彙や文法の復習をしながら、基本の挨拶から練習します。モデル会話を聞きながら、何度も繰り返し練習します。相手の意見を聞き、自分の意思を英語で表現できるようになることを目標に、恥ずかしがらずに大きな声で話すように心がけてください。予習、復習には、音読がもっとも効果的です。声に出すことで脳に記憶として残り、自発的に話したいという行動につながります。（各回授業の予習・復習時間は60分）
授業計画
1 挨拶と自己紹介
2 時間と日、曜日など
3 日々の活動やいつも行うこと
4 熟語を使う
5 会話と復習
6 家庭と家族
7 食べ物と飲み物
8 会話と復習
9 テレビと映画
10 会話と復習
11 洋服と買い物
12 四季と天気
13 休暇には何をしますか?
14 熟語を使う
15 会話と復習
16 挨拶と自己紹介
17 時間と日、曜日など
18 日々の活動やいつも行うこと
19 熟語を使う
20 会話と復習
21 家庭と家族
22 食べ物と飲み物
23 会話と復習
24 テレビと映画
25 会話と復習
26 洋服と買い物
27 四季と天気
28 休暇には何をしますか?
29 熟語を使う
30 会話と復習
定期試験　実施する

学生に対する評価
授業への参加度（発表や態度）：20%、レポート提出：30%、試験結果：50%
テキスト
毎回ハンドアウトを配布します。辞書を用意して置いてください。（スマートフォンは使用不可）
参考書・参考資料など
なし

授業科目名:生涯スポーツ・健康科学	開講時期：1年・通年	授業区分：幼免・保育士必修
担当者名：准教授　堀田　亮	授業形態：実技・講義	授業回数：30回
授業コード：202	単位数：2単位	オフィスアワー：金曜日4限目
ナンバリング：生涯スポーツ：DH11202・健康科学：DH11303	該当DP：1-①、3-③	

授業の到達目標及びテーマ
・幼児期および青年期における運動・スポーツの意義や果たすべき役割を理解することができる。 ・子どもや障がい者を対象とした運動・スポーツ活動に関する基礎的な技術を習得する。 ・子どもや障がい者や高齢者を対象とした運動・スポーツ活動のレパートリーを増やすことができる。
授業の概要
体育・スポーツ教育の中核目標である「できる」ことにくわえ、「わかる」ことや「みんながうまくなる」ことを共通目標とする。特に、生涯スポーツの土台となる子どもの運動あそびを追体験することを通して、保育者として必要な運動あそびのレパートリーを増やすこととバリエーションの拡げ方を理解することを目指す。
事前学習及び事後学習
・地域における様々なスポーツイベントに自ら参加したり、障がい者や高齢者を対象としたスポーツイベントにボランティアとして積極的に参加することを通して、地域社会におけるスポーツ活動の現状に対する理解を深める。 ・授業で体験した運動あそびの方法（工夫、発展を含む）などをレポートとしてまとめる。（各回授業の予習・復習時間は60分）
授業計画
1 前期オリエンテーション
2 アイスブレーキングゲーム
3 コミュニケーションワークゲーム
4 バドミントンと卓球（試しのゲームとゲーム分析）
5 リーグ戦①（基本的な動きとルールの理解）
6 リーグ戦②（フォアハンドの習得）
7 リーグ戦③（バックハンドの習得）
8 リーグ戦④（まとめ）
9 バレーボール（試しのゲームとゲーム分析）
10 ルール作り①（ラリー数を増やすために）
11 ルール作り②（触球数を増やすために）
12 ルール作り③（攻撃のバリエーションを増やすために）
13 リーグ戦（まとめ）
14 高齢者や障がい者を対象としたスポーツ
15 高齢者・障がい者スポーツの課題
16 後期オリエンテーション
17 なわを使った運動
18 フープを使った運動
19 身近な素材を使った運動①（新聞紙）
20 身近な素材を使った運動②（ポリ袋）
21 鬼あそび
22 表現あそび
23 幼児体操・運動あそびの発表会に向けた情報収集
24 幼児体操・運動あそびの発表会（1班、2班）
25 幼児体操・運動あそびの発表会（3班、4班）
26 幼児体操・運動あそびの発表会（5班、6班）
27 幼児体操・運動あそびの発表会（7班）
28 幼児体操・運動あそびの発表会の反省会
29 生涯スポーツの意義
30 まとめ
定期試験　実施する

学生に対する評価
① 毎授業後の感想文：20%、② 授業中に提示する課題レポート：40%、③ 定期試験：40%
テキスト
学校体育研究同志会（鐘ヶ江淳一他）、『幼児期運動遊びの進め方』、創文企画、2009年、1620円
参考書・参考資料など
授業中にプリントを配布する。

授業科目名:日本国憲法	開講時期：1年・後期	授業区分：幼免必修・保育士選択
担当者名：講師　長谷川哲也	授業形態：講義	授業回数：15回
授業コード：203	単位数：2単位	オフィスアワー：水曜日2限目
ナンバリング：DH11201	該当DP：1-①、3-①	

授業の到達目標及びテーマ
日本国憲法の原理及び基礎的な知識を理解・習得し、平和で民主的な国家・社会の形成者に必要な公民的資質を身につけ、政治的・社会的諸問題について考察できる力を習得することを目標とします。
授業の概要
日本国憲法は、国政の基本を定めた法で、日本の政治と国民生活の基本的な在り方を示しています。全体的な枠組みを体系的に理解しながら、憲法が抱える問題点を学んでいきます。憲法や法にかかわる今日的なトピックを多く取り上げることで基本的理解が容易に得られるように講義を進めます。
事前学習及び事後学習
新聞・テレビ・インターネット等のニュースをよく見聞きし、「その背景にある本質は何か」を自分で考えてみる。また、憲法・法律に関する報道に関心を向け、それらの今日的な課題・意味について考察する。
授業計画
1 日本国憲法とは何か
2 人権宣言の歴史と立憲主義
3 大日本帝国憲法から日本国憲法
4 日本国憲法の特徴と基本原理
5 国民主権①（国民主権の原理、具体化）
6 国民主権②（象徴天皇制）
7 平和主義
8 基本的人権の尊重（基本的人権の体系、公共の福祉）
9 包括的基本権①（法の下の平等）
10 包括的基本権②（幸福追求権、新しい人権）
11 自由権（精神的自由権、経済的自由権、人身の自由）
12 社会権（生存権、教育を受ける権利、労働基本権）
13 統治機構（三権分立と議院内閣制）
14 統治機構（国会、内閣、裁判所）
15 憲法学習のまとめ
定期試験　実施する

学生に対する評価
（1）筆記試験：50%、（2）レポート点：30%、（3）意欲的参加・発表質問等：20%
テキスト
近畿大学九州短期大学通信教育部教材、『日本国憲法』、2015年、500円
参考書・参考資料など
『講義ノート』　授業の際にプリントを配布します

授業科目名:情報処理入門	開講時期：1年・通年	授業区分：幼免必修・保育士選択
担当者名：教授　二摩修司	授業形態：演習	授業回数：30回
授業コード：204	単位数：2単位	オフィスアワー：前期木曜4限／後期火曜2限
ナンバリング：DH11203	該当DP：1-②、2-③	

授業の到達目標及びテーマ
インターネット（WWW、電子メール）の正しい利活用、事務系ソフト（Word、Excel、PowerPoint）の基本操作とそれらを利用した文書作成、基本的なデータ処理、プレゼンテーション資料作成ができる。
授業の概要
パソコンの利活用能力は、幼稚園教諭や保育士等の職種につくことを目指す全学生に要求される。よって、本科目を情報処理の基幹科目として位置付ける。授業では、情報検索や電子メールなどの操作を通してインターネットの基本的な利用法及びマナー（情報倫理）を学習する。続いて代表的な事務系ソフトの基本的な利用方法を演習を通じて習得する。
事前学習及び事後学習
タイピングの練習を行うこと。教科書の該当部分を事前に読んでおくこと。基本的に授業内容は積み上げであり、前回までの内容を前提にしているので、授業で行った演習を必ずあとから自分でやってみること。授業で利用するLMSには適宜アクセスし、次回資料などに目を通しておき、指示された提出物はここから提出すること。（各回授業の予習・復習時間は60分）
授業計画
1 ガイダンス、タッチタイピング
2 日本語入力(IMEについて)
3 インターネットの利用法・マナー（情報倫理）
4 LMSの使い方、情報検索の方法
5 電子メールの利用法・マナー
6 MS-Word（フォント操作）
7 MS-Word（文字位置、均等割付など）
8 MS-Word（ルーラとタブ設定）
9 MS-Word（ワードアートや図の利用）
10 MS-Word（表作成）
11 MS-Word（ページレイアウトなど）
12 演習課題
13 MS-Excel（基本操作、表の作成）
14 MS-Excel（基本的な計算）
15 演習課題
16 MS-Excel（前期の復習）
17 MS-Excel（基本的な関数）
18 MS-Excel（相対参照と絶対参照）
19 MS-Excel（グラフ）
20 MS-Excel（データベース機能）
21 MS-Excel（やや複雑な関数その１）
22 MS-Excel（やや複雑な関数その２）
23 MS-Excel（条件付き書式）
24 演習課題
25 MS-PowerPoint（基本操作）
26 MS-PowerPoint（箇条書き、テーマ選択等）
27 MS-PowerPoint（図やオブジェクトの挿入）
28 MS-PowerPoint（図表・グラフ・表の挿入）
29 MS-PowerPoint（特殊効果）
30 演習課題
定期試験　実施しない

学生に対する評価
授業への積極的参加：20%、授業中及び期末に出題する課題：80%
テキスト
杉本くみ子・大澤栄子、『30時間アカデミック情報リテラシーOffice2016』、実教出版、2016年、1404円
参考書・参考資料など
紙の資料として適宜プリントを配布する。また、LMSを使って説明資料やサンプルデータなどを配布する。

授業科目名:国語表現法	開講時期：1年・前期	授業区分：保育士選択
担当者名：准教授　皆川　晶	授業形態：講義	授業回数：15回
授業コード：205	単位数：2単位	オフィスアワー：水曜日5限目
ナンバリング：DH11101	該当DP：1-①、3-②	

授業の到達目標及びテーマ
美しい日本語、敬語を話すことができる。文章を読み、内容を理解し、自己の意見を言葉や文章で表現することができる。
授業の概要
生活の中で言葉が果たす役割を理解し、書くこと、読むことを中心に、日本語においての基本を学び、言葉を用いて豊かに表現する能力を深める。
事前学習及び事後学習
新聞や文章によく接し、言葉や表現への理解を深めること。小テストを実施するので、漢字や語句の復習をすること。（各回授業の予習・復習時間は60分）
授業計画
1 日本語の基礎知識
2 物語・児童文学の魅力
3 会話表現
4 敬語を身につける（基礎）
5 敬語を身につける（応用）
6 手紙の書き方
7 文章の読解
8 文章の要約
9 話し言葉と書き言葉
10 文章を書くための基礎知識（表記）
11 文章を書くための基礎知識（重複表現、文末）
12 レポート・意見文の書き方
13 新聞の読解（保育）
14 新聞を読んで問題点を発見する
15 意見文を書く（保育）
定期試験　実施する

学生に対する評価
試験：40%、課題：30%、小テスト：20%、授業への積極的参加：10%
テキスト
使用しない。授業時にプリントを配付する。
参考書・参考資料など
必要に応じて参考文献を講義中に紹介する。

授業科目名:自然環境	開講時期：1年・前期	授業区分：保育士選択
担当者名：准教授　髙木義栄	授業形態：講義	授業回数：15回
授業コード:206	単位数：2単位	オフィスアワー：火曜日5限目
ナンバリング：DH11302	該当DP：1-①	

授業の到達目標及びテーマ
地球や生命の歴史、天体、構造的な地球環境、生物の特徴、環境問題について説明することができる。原発問題について自分の意見・解決策を主張することができる。観察・採集を通して観察力や集中力を身につけることができる。
授業の概要
生活福祉情報科及び保育科の共通教育科目です。講義形式で天体や地球、生命の歴史、構造的な地球環境、文明発達に伴う環境問題について解説して基礎知識を学ぶとともに、生態系の一員としてのヒト、自然との関わり、環境保全について考察します。また、野外での身近な生物の観察・採集を通して、観察力と集中力を養います。
事前学習及び事後学習
図書館やインターネットで天体や地球、生物に関する情報を収集する。各回の授業内容に関連した文献に目を通す。普段の生活の中で目にした自然に注意を向け、観察する習慣をつける。（各回授業の予習・復習時間は60分）
授業計画
1 太陽系と地球
2 河川敷でのバードウォッチング
3 地球の大気組成（なぜ地球は生物の楽園になったのか）
4 身近な虫探し（グループワーク）
5 生きている地球
6 アリの巣マップの作成（グループワーク）
7 生命の歴史
8 身近な生物（神社）
9 ヒトの進化
10 樹木オリエンテーション（グループワーク）
11 文明の発達と環境問題
12 生物クイズ
13 原発問題
14 身近な危険動物
15 セミ捕り
定期試験：実施しない

学生に対する評価
レポート：70%、グループワークへの積極的参加：20%、その他の課題提出物：10%
テキスト
授業中に適宜プリントを配布する。
参考書・参考資料など
荒井秋晴・白石哲・澄川精吾・船越公威・鶴崎健一、『ヒトと自然』、東京教学社、2018年、2160円

授業科目名:生命科学	開講時期：1年・後期	授業区分：保育士選択
担当者名：准教授　髙木義栄	授業形態：講義・演習	授業回数：15回
授業コード：207	単位数：2単位	オフィスアワー：火曜日5限目
ナンバリング：DH11301	該当DP：1-①	

授業の到達目標及びテーマ
観察・採集・インターネットの利用を通して、身近な生物に関する名前や特徴を説明することができる。身近な物（自然物・人工物）を使った工作を通して、生物の存在や特徴を伝える表現力を身につけることができる。
授業の概要
生活福祉情報科及び保育科の共通教育科目です。講義形式で生物多様性や分類、遺伝について解説して基礎知識を学ぶとともに、多種多様な生物の存在及び特徴を理解します。また、野外での身近な生物の観察や採集及び身近な自然物・人工物を使った工作を通して、次世代に身近な生物の存在や特徴を伝える表現力を養います。一部の作品については附属幼稚園の子ども達にプレゼントします。
事前学習及び事後学習
図書館やインターネットで身近な生物に関する情報を収集、生物に関連した文献に目を通す。普段の生活の中で目にした自然に注意を向け、観察する習慣をつける。（各回授業の予習・復習時間は60分）
授業計画
1 生物多様性・分類・遺伝
2 身近な動物Ⅰ（昆虫採集）
3 身近な動物Ⅱ（魚釣り）
4 身近な動物Ⅲ（短大周辺のネコ分布調査）
5 カラーコピーを利用したリアル釣りゲーム制作Ⅰ（素材集め）
6 カラーコピーを利用したリアル釣りゲーム制作Ⅱ（制作・実演）
7 身近な危険植物、野外活動での注意点
8 身近な植物Ⅰ（いろいろな実・ドングリ採集）
9 身近な植物Ⅱ（いろいろな葉・落ち葉の貼り絵）
10 ドングリを使った工作
11 身近な植物Ⅲ（焼き芋）
12 身近な動物Ⅳ（冬の虫探し）
13 デジタルバードウォッチング（インターネットの活用）
14 身近な動物Ⅴ（公園でのバードウォッチング）
15 ダンボール恐竜制作・贈呈（グループワーク）
定期試験：実施しない

学生に対する評価
レポート：70%、その他の課題提出物：30%
テキスト
授業中に適宜プリントを配布する。
参考書・参考資料など
荒井秋晴・白石哲・澄川精吾・船越公威・鶴崎健一、『ヒトと自然』、東京教学社、2018年、2160円

授業科目名:キャリアデザインⅠ	開講時期：2年・前期	授業区分：保育科指定
担当者名：教授　金 俊華・准教授　堀田 亮	授業形態：講義	授業回数：15回
授業コード：208	単位数：2単位	オフィスアワー：金曜日5限目
ナンバリング：DH11204	該当DP：1-①、3-①②③	

授業の到達目標及びテーマ
就職活動における情報収集の重要性を理解し、自ら情報収集することができる。また、就職活動の流れ、手続きを理解し就職活動を行うことができる。最終的に、履歴書作成や面接の技術を高め、自信を持って就職活動に臨むことができる。
授業の概要
就職に向けて、履歴書作成や面接に必要な知識と技術を習得する。また、情報収集の方法や求人票等の関連資料の分析を行い、自ら情報収集することができるように指導する。就職活動の流れ、手続きを理解し就職活動を行うことを通して、社会人として自らのキャリアデザインの構築をめざす。
事前学習及び事後学習
自分の進路を明確にし、希望する就職先の情報を集めておく。授業を通して提示された課題に積極的に取り組むこと。（各回授業の予習・復習時間は60分）
授業計画
1 オリエンテーションーキャリアデザインとは何か
2 卒業生の就職動向の把握
3 自己分析①自分はなぜ保育者をめざすのか
4 自己分析②適性検査の結果の分析
5 求人票の見方
6 自己表現力を高める①（3分間スピーチ）
7 自己表現力を高める②（3分間スピーチ）
8 履歴書の書き方ー自己PR
9 履歴書の書き方ー志望動機
10 面接項目の整理
11 模擬面接①（個人）
12 模擬面接②（個人）
13 模擬面接③（集団）
14 就職内定に関する手続きと留意点
15 最終課題及び履歴書の提出
定期試験　実施しない

学生に対する評価
授業中小レポート：30%、学期末レポート：40%、発表：30%
テキスト
特に指定しない。授業中、資料を配布する。
参考書・参考資料など
授業中、紹介する。

授業科目名:社会福祉	開講時期：1年・前期	授業区分：保育士必修
担当者名：教授　大津泰子	授業形態：講義	授業回数：15回
授業コード：209	単位数：2単位	オフィスアワー：火曜日5限目
ナンバリング：DH12103	該当DP：1-②、2-①	

授業の到達目標及びテーマ
(テーマ) 現代社会における社会福祉を理解するために、史的変遷や法制度等について学習するとともに、これからの社会福祉の課題や動向について理解を深める。 （達成目標） ・日常の暮らしと、社会福祉との繋がりを理解することができる。 ・社会福祉の基礎理念と社会福祉における子ども家庭支援の視点について理解することができる。
授業の概要
社会福祉の基礎を学習するために、日常的な暮らしの中で起こるさまざまな具体的な事例を紹介し、社会福祉の課題が身近なところにあることを理解できるようにする。主にテキストを使用するが、授業計画にそって資料等の副教材を準備する。また、現代の社会福祉について具体的に理解できるよう、視聴覚教材も使用する。自分の考えや意見をまとめるためのレポート作成を適宜入れる。
事前学習及び事後学習
・新聞・テレビなどを通して、福祉に関する報道に関心を向け、それらの今日的な課題や意味について考えること。 ・指定したテキストや資料を読み予習をして授業に臨むこと。 ・授業後にレポートを作成し、学習した内容の理解を深める。（各回授業の予習・復習時間は60分）
授業計画
1 現代社会の社会福祉
2 社会福祉の理念
3 社会福祉の歴史1－日本における社会福祉の歩み
4 社会福祉の歴史2－諸外国における社会福祉の歩み
5 日本における社会福祉の制度①貧困問題・生活保護
6 日本における社会福祉の制度②障がいを持つ人々への支援
7 日本における社会福祉の制度③子ども家庭支援の考え方
8 日本における社会福祉の制度④ひとり親家庭への施策
9 社会福祉の組織と施設
10 社会福祉の専門職
11 相談援助の理論
12 相談援助の方法
13 これからの社会福祉の課題①少子高齢化社会における子育て支援
14 これからの社会福祉の課題②共生社会をめざす福祉施策
15 学習した内容の総括と質疑応答
定期試験　実施する

学生に対する評価
定期試験：50%、レポート：30%、授業への積極的参加（自発的な発表など）：20%
テキスト
橋本好市他、『保育と社会福祉』、みらい、2019年、2160円
参考書・参考資料など
参考資料は適宜配布する。

授業科目名:子ども家庭福祉	開講時期：2年・後期	授業区分：保育士必修
担当者名：教授　大津泰子	授業形態：講義	授業回数：15回
授業コード：210	単位数：2単位	オフィスアワー：火曜日5限目
ナンバリング：DH32102	該当DP：1-②、2-①、3-④	

授業の到達目標及びテーマ
（テーマ） 子どもの人権擁護の視点に立ち、現代社会における子ども家庭福祉の役割と制度を理解できるようにする。さらに、これからの子ども家庭福祉の課題や動向について理解を深める。 （到達目標） ・保育者として子どもの最善の利益をはかるための基礎的な知識を修得する。 ・子ども家庭福祉の課題について総括的に考察できる力を養う。
授業の概要
子どもや家庭に関する福祉について、歴史、法体系、制度・施策などを取り上げ、総合的に学習していく。また、現代の子どもを取り巻く社会や環境において、保育者として子どもの権利を尊重し、子どもの最大の利益をはかる支援についてまとめていく。さらに、子どもや家庭に福祉に関する疑問や問題に対し、自分の考えをまとめ、レポート作成をする。 主にテキストを使用するが、授業計画にそって資料等の副教材を準備する。また、視聴覚教材も使用しながら理解を深めていく。
事前学習及び事後学習
・新聞・テレビなどを通して子どもや家庭への福祉に関する報道に関心を向け、それらの今日的な課題・理解について考えること。 ・指定した教科書や資料を読み、予習して授業に臨むこと。 ・授業後にレポートを作成し、学習した内容の理解を深めること。（各回授業の予習・復習時間は60分）
授業計画
1 子どもと家庭福祉の概念
2 現代社会と子ども家庭福祉①社会環境の変化と子ども家庭福祉
3 現代社会と子ども家庭福祉②少子化問題と子ども家庭福祉
4 現代社会と子ども家庭福祉③家庭問題と子ども家庭福祉
5 子ども家庭福祉の法体系
6 子ども家庭福祉の制度①貧困世帯への支援
7 子ども家庭福祉の制度②社会的養護について
8 子ども家庭福祉の制度③子ども虐待の防止と支援
9 子ども家庭福祉の制度④ひとり親世帯への支援
10 子ども家庭福祉の制度⑤障がいを持つ子どもと家庭への支援
11 子ども家庭福祉の制度⑥母子保健施策
12 新しい子育て支援の施策
13 子どもの人権擁護の歴史的変遷
14 子どもの権利条約の理解
15 学習した内容の総括と質疑応答
定期試験　実施する

学生に対する評価
定期試験：50%、レポート：30%、授業への積極的参加(自発的な発表など）：20%
テキスト
大津泰子、『児童家庭福祉―子どもと家庭を支援する　第3版』、ミネルヴァ書房、2018年、2376円
参考書・参考資料など
参考資料は適宜配布する。

授業科目名:多文化共生保育	開講時期：1年・後期	授業区分：保育士選択
担当者名：教授　金　俊華	授業形態：講義	授業回数：15回
授業コード：211	単位数：2単位	オフィスアワー：月曜日5限目
ナンバリング：DH22701	該当DP：1-①②、2-①、3-③	

授業の到達目標及びテーマ
文化の定義を学習し、異文化を相対的に理解することの意義について学ぶ。また、幼児教育現場における多文化共生の実践は、幼児・保護者・保育者のみならず、地域社会との連携を通して可能であり、そのためには異文化間の対話が必要であることを理解する。
授業の概要
文化の定義、文化相対主義、グローバリズムなど異文化理解に必要な基本的な概念について学習する。また、外国の文化や考え方について幼児期から親しみをもつための工夫や環境構成について学ぶ。また、日本文化を子どもたちに理解してもらうための知識や方法についても学習する。また、世界の幼児教育の制度や動向について学習する。
事前学習及び事後学習
事前学習として、3法令を熟読し多文化共生の関連項目について学習する。また、世界の幼児教育の動向について学習しておく必要がある。また、授業を通して学んだ知識を活用し、日常生活を通して新聞、テレビ、文献などの具体的な情報を多文化共生の視点で理解できる知見を獲得する。（各回授業の予習・復習時間は60分）
授業計画
1 グローバル化と教育
2 文化の定義
3 異文化理解の視点①自文化中心主義
4 異文化理解の視点②文化相対主義
5 世界の幼児教育の動向①欧米
6 世界の幼児教育の動向②アジア
7 「3法令」にみられる多文化共生の理念
8 日本語の学習が必要な子どもの支援
9 保護者への支援と対話―多様性と「寛容」を育む
10 家庭・地域社会との連携
11 日本の幼児教育慣行
12 宗教と生活様式
13 多文化共生の観点を取り入れた保育（発表①）
14 多文化共生の観点を取り入れた保育（発表②）
15 発表についての討論（グループワーク）
定期試験　実施する

学生に対する評価
テスト：50%、発表：30%、レポート：20%
テキスト
特に指定しない。
参考書・参考資料など
内閣府・文科省・厚労省、『平成29年告示　幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領＜原本＞』、チャイルド本社、2017年、540円

授業科目名: 保育原理	開講時期：2年・後期	授業区分：保育士必修
担当者名：教授　三木一司	授業形態：講義	授業回数：15回
授業コード：212	単位数：2単位	オフィスアワー：火曜日5限目
ナンバリング：DH32101	該当DP：1-②、2-①	

授業の到達目標及びテーマ
保育の意義及び目的について理解する。法令や制度を踏まえ、保育の基本について理解する。保育の歴史的変遷を踏まえ、保育の現状と課題について理解する。
授業の概要
保育者に求められる保育の意義や目的、法令や制度の理解を踏まえた子どもや家庭との連携、保育の歴史や現在の課題を理解することを通して、保育者としての責務や愛情について学び考える。
事前学習及び事後学習
保育をめぐる問題を整理した上で、実践上の課題を整理しておく。 講義の要点を確認し、関連する文献や情報を精査して理解を深める。（各回授業の予習・復習時間は60分）
授業計画
1 保育の意義と目的
2 子どもの利益と保育
3 保育の社会的な役割
4 保育の基本原則
5 子どもの発達とあそび
6 遊びを通した保育を考える
7 園と家庭の連携①
8 園と家庭との連携②
9 保育の記録①
10 保育の記録②
11 子どもの安全を考える
12 子ども理解と省察・評価
13 保育の改善
14 保育の思想と歴史的変遷
15 保育の現状と課題
定期試験　実施しない

学生に対する評価
レポート試験：60%、課題：40%
テキスト
特に指定しない。
参考書・参考資料など
内閣府・文科省・厚労省、『平成29年告示　幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領＜原本＞』、チャイルド本社、2017年、540円 適宜資料を配付し、必要に応じて参考文献を紹介する。

授業科目名:社会的養護Ⅰ	開講時期：1年・後期	授業区分：保育士必修
担当者名：准教授　渡邊　暁	授業形態：講義	授業回数：15回
授業コード：213	単位数：2単位	オフィスアワー：火曜日5限目
ナンバリング：DH22105	該当DP：2-①、3-①③④	実務経験のある教員による科目

授業の到達目標及びテーマ
①保育士にとって社会的養護を学ぶことが必要な理由を説明することができる。 ②児童福祉施設の現状と施設の役割を理解できる。 ③社会的養護の対象や形態、関係する専門職等について理解する。 ④社会的養護の課題について述べることができる。
授業の概要
社会的養護の意義・歴史的変遷の把握を基盤に、子どもの人権養護、社会的養護の制度、実施体系、自立支援等の現状および課題の理解を通して、保育士としての多様なニーズへの対応、子どもの生活・成長・発達支援のあり方について考察する。
事前学習及び事後学習
・事前学習として新聞やテレビ、ネットなどを観て、社会で起こっていることを情報収集する。また、テキストや配布資料、授業内で提示した　文献を参考に学習を深める。事後学習として様々な課題に対してレポートを作成し提出する。 ・（各回授業の予習・復習時間は60分）
授業計画
1 社会的養護を学ぶ目的
2 社会的養護の歴史と変遷
3 社会的養護に関する社会的状況と児童養護問題発生のメカニズム
4 子どもの権利擁護と社会的養護
5 社会的養護の理念と施設養護の基本原理
6 家族支援の意義・社会的養護の役割
7 社会的養護の対象と児童養護の種類・内容
8 家庭的養護の現状と課題
9 社会的養護の体系と運営
10 施設養護の実際
11 社会的養護に関わる専門職
12 施設養護における保育士の支援
13 里親の現状と活用
14 社会的養護と地域福祉
15 社会的養護の課題
定期試験　実施する

学生に対する評価
試験結果：50%、レポート課題：30%、授業への積極的参加：20%
テキスト
原田旬哉・杉山宗尚（編著）、『社会的養護Ⅰ』、萌文書林、2018年、2160円
参考書・参考資料など
吉田眞理（編著）、『児童の福祉を支える社会的養護Ⅰ』、萌文書林、2019年、2160円 鬼﨑信好・本郷秀和・渡邊暁他、『コメディカルのための社会福祉概論』、講談社、2018年、2592円

授業科目名:保育実習	開講時期：1年・後期　2年・前期	授業区分：保育士必修
担当者名：教授 大津泰子・准教授 渡邊　暁	授業形態：実習	授業回数：
授業コード：214	単位数：4単位	オフィスアワー： 大津：火曜日5限目、渡邊：火曜日5限目
ナンバリング：DH22401	該当DP：1-②、2-①②、3-①②③	

授業の到達目標及びテーマ

保育現場での実践体験を通して、児童福祉施設の機能や保育士の役割、職務内容を具体的に理解し、自己課題に向き合い、将来の保育士としての自覚を得て次の実習目標を見出す契機とする。
到達目標は以下の通りである。
・保育現場で保育を経験することにより、これまで学習してきた理論や技術が、保育の実践と具体的にどのように繋がるか理解することができる。
・実践を通じて子どもへの理解を深め、保育の技術、能力を向上させる。
・保育所と児童福祉施設の役割と機能を理解し、それぞれの保育士の職務内容について具体的に学ぶ事ができる。
・自分なりの保育観や子ども観を深め確立する。

授業の概要

保育実習Ⅰは、保育士資格を取得するために、児童福祉施設で行う実習である。「保育所」と「それ以外の施設」で実習を行う。それぞれ10日間の実習で、次の内容を体験的に学ぶ。①保育所・施設における子どもの生活と保育士の援助や関わり　②子どもへの理解を深める　③保育士の業務内容や職業倫理について学ぶ　④保育の技術や記録方法について実践的に学ぶ　⑤保育士を志すものとして自覚を高める。
なお、保育実習Ⅰを履修するためには、「保育実習参加資格」の条件を満たさなければならない。

事前学習及び事後学習

・毎日の自分の実習のねらい、課題を明確にしておく。
・教材研究、指導案作成、保育の準備を行う。
・実習後の日誌の作成と、実習の反省と課題を明確にする。（各回授業の予習・復習時間は60分）

授業計画

<保育所実習>　保育実習Iの「保育所実習」では、以下の観点から保育所における保育がどのようになされているかを理解する。
1. 保育所の内容、機能について理解する。（子どもの生活や保育士の援助や関わりなど）
2. 保育所における子どもの理解。（年齢（月齢）ごとの子どもの発達とその特徴など）
3. 保育所における保育者の職務内容、役割などを理解する。
4. 日誌や指導案の書き方を学ぶ。
5. 保育の指導計画及び評価を理解する。
担当保育者の指導や助言に従い、積極的に保育実習に参加すること。

<施設実習>　保育実習Ⅰの「施設実習」では、以下の観点から施設における保育がどのようになされているかを理解する。
1. 施設の内容、機能などを理解する。（子どもの生活や保育士の援助や関わりなど）
2. 保育士の職務内容および役割、また他の職員とのチームワークなどの理解
3. 施設の子どもの生活と環境を理解する
4. 日誌の書き方を学ぶ。
5. 個別支援計画の理解と活用。
担当保育者の指導や助言に従い、積極的に保育実習に参加すること。

定期試験　実施しない

学生に対する評価

①実習日誌などの提出物：40%、②実習園の評価：40%、③勤務状況等：20%

テキスト

内閣府・文科省・厚労省、『平成29年告示　幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領＜原本＞』、チャイルド本社、2017年、540円
厚生労働省、『保育所保育指針解説書（平成30年）』、フレーベル社、2018年、346円
石橋裕子・林幸範（編著）、『改訂版知りたいときにすぐわかる　幼稚園・保育所・児童福祉施設実習ガイド』、同文書院　2018年、2160円

参考書・参考資料など

授業科目名:保育実習事前事後指導	開講時期：1年・通年	授業区分：保育士必修
担当者名：教授 大津泰子・准教授 渡邊　暁	授業形態：演習	授業回数：30回
授業コード：215	単位数：2単位	オフィスアワー： 大津：（前期）火曜日5限目（後期）火曜日5限目 渡邊：火曜日5限目
ナンバリング：DH22402	該当DP：1-②、2-①、3-③	

授業の到達目標及びテーマ
本授業は、保育実習（保育所及び福祉施設実習）の事前・事後学習として実施されるものである。事前指導として、保育実習の心構えや実習園や福祉施設の概要を理解し、実習計画・目標の設定を通して、実習に臨む準備を行う。事後学習では、実習内容の振り返りを行い、自己評価に取り組む。到達目標は以下の通りである。 ・保育実習の意義・目的を理解し、自己の実習の課題を明確にする。 ・指導計画案の作成や実習日誌の書き方などに関わる知識と技術を身につける。 ・実習の総括と自己評価を行い、新たな課題や学習目標を明確にする。
授業の概要
この科目では、はじめに保育実習の意義・目的・内容といった保育実習の全体的な枠組みを概説する。それに続いて、具体的な内容に関して保育所実習・児童福祉施設実習についての授業を行う。保育所実習・児童福祉施設実習に関するそれぞれの授業において、実習前にすべき事柄・指導計画案の作り方・実習記録の作成および、実習後にすべき事柄などを中心に、具体的な実例に基づきながら行っていく。また、実習後は、それぞれの総括と自己評価を行い、保育実習Ⅱ・Ⅲにおける新たな課題や学習目標をまとめていく。
事前学習及び事後学習
・次回の授業内容について、テキストや資料等に目を通しておくこと ・手遊び・歌遊び、絵本の読み聞かせなどの教材や設定保育など保育実習に向けた準備をしておくこと。 ・授業後に課題レポートを作成し、次回提出すること。 ・保育実習後の反省をふまえて、実習事後報告レポートを作成し提出すること。（各回授業の予習・復習時間は60分）
授業計画
1 保育実習の流れ
2 保育実習の目的と理解①（保育園）
3 保育実習の目的と理解②（施設）
4 保育園実習に関する基礎的理解
5 保育実習園の選定について（施設）
6 保育実習園の選定について（保育園）
7 保育所における保育内容①（0～3歳児）
8 保育所における保育内容②（3歳以上児）
9 保育実技（授乳・おむつ交換・沐浴）
10 保育所における保育内容③（デイリースケジュール）
11 保育所における保育内容③（デイリースケジュール）
12 実習日誌の作成・記録①（基礎）
13 実習日誌の作成・記録②（応用）
14 保育所実習日誌等の記入の仕方
15 指導計画の作成①（基礎）
16 指導計画の作成②（応用）
17 保育所・施設見学実習
18 施設実習に関する基礎的理解
19 施設における保育内容と養護①（児童福祉施設）
20 施設における保育内容と養護②（その他の施設）
21 施設実習日誌等の記入の仕方①（児童福祉施設）
22 施設実習日誌等の記入の仕方②（その他の施設）
23 施設実習に際しての基本的な注意事項①（児童福祉施設）
24 施設実習に際しての基本的な注意事項②（その他の施設）
25 保育実習に向けての具体的な準備①（教材研究）
26 保育実習に向けての具体的な準備②（グループ発表A）
27 保育実習に向けての具体的な準備③（グループ発表B）
28 保育実習に向けての具体的な準備④（卒業生の講演会・交流会）
29 保育実習事前ガイダンス
30 保育実習Ⅱ・Ⅲに向けての課題と学習目標
定期試験　実施する（前期・後期各期）

学生に対する評価
①実習事前・事後レポート：30%、②定期試験：20%、③課題レポート：20%、④授業への積極的な参加（学内ガイダンスや見学実習など実習に関わる活動への参加は必須。全体の5分の4以上の出席は必須）：30%
テキスト
内閣府・文科省・厚労省、『平成29年告示　幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領＜原本＞』、チャイルド本社、2017年、540円 厚生労働省、『保育所保育指針解説書（平成30年）』、フレーベル社、2018年、346円 石橋裕子・林幸範（編著）、『改訂版 知りたいときにすぐわかる　幼稚園・保育所・児童福祉施設実習ガイド』、同文書院　2018年、2160円
参考書・参考資料など
参考資料は適宜配布する。

授業科目名:保育実習Ⅱ	開講時期：2年・後期	授業区分：保育士必修
担当者名：教授　大津泰子	授業形態：実習	授業回数：
授業コード：216	単位数：2単位	オフィスアワー：月曜日5限目
ナンバリング：DH32601	該当DP：1-②、2-①②③、3-①②③④	

授業の到達目標及びテーマ

保育実習Ⅱでは、保育所の機能や役割について具体的な実践を通して理解を深める。また、保育の理解、保育の多様な展開、地域連携、保護者支援、子育て支援など保育士の役割全般について理解する。さらに実習を通じて保育士としての自己課題を明確化するものである。
達成目標は以下の通りである。
・「保育実習Ⅰ」を通して学んだ技術と理論を基礎として、保育士として必要な資質、能力、技術を向上させる。
・子育て支援をするために必要な知識・技術と、ニーズに対する理解力・判断力を養うことができる。
・保育実習Ⅰ・Ⅱを通じて、保育士を目指す自己の課題を明確化する。

授業の概要

「保育実習Ⅱ」では、前回の保育所実習を生かし、子どもの年齢や発達に応じた保育展開、状況に応じた保育の実践、さらに子育て支援としての保育所の役割を踏まえた保育実践に努める。
「保育実習Ⅱ」を履修するためには、「保育実習参加資格」の条件を満たさなければならない。また、「保育実習Ⅰ」を終えておかなければならない。

事前学習及び事後学習

・毎日の自分の実習のねらい、課題を明確にしておく。
・教材研究、指導案作成、保育内容の準備を行う。
・実習後の日誌の作成と、実習後の反省と課題を明確にする。（各回授業の予習・復習時間は60分）

授業計画

保育実習Ⅱでは、以下の観点から保育士としての実践力を高めていくよう努める。
1. 子どもの年齢や発達に応じた保育や遊びの展開を行う。
2. その場の状況に応じた子どもへの対応と保育について理解する。
3. 問題のある子どもや保護者に対する対応について理解する。
4. 延長保育や休日保育、育児相談など子育て支援事業の理解。
5. 保育の計画、実践、観察、記録及び自己評価等の実践と理解。（部分実習、全日実習、査定実習）
6. 実習における自己の課題を明確化する。
できるだけ、部分実習や全日実習を行い、実践力を養うよう努めること。

定期試験　実施しない

学生に対する評価

①実習日誌などの提出物：40%、②実習園の評価：40%、③勤務状況等：20%

テキスト

内閣府・文科省・厚労省、『平成29年告示　幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領＜原本＞』、チャイルド本社、2017年、540円
厚生労働省、『保育所保育指針解説書（平成30年）』、フレーベル社、2018年、346円
石橋裕子・林幸範（編著）、『改訂版 知りたいときにすぐわかる　幼稚園・保育所・児童福祉施設実習ガイド』、同文書院、2018年、2160円

参考書・参考資料など

授業科目名:保育実習Ⅲ	開講時期：2年・後期	授業区分：保育士必修
担当者名：准教授　渡邊　暁	授業形態：実習	授業回数：
授業コード：217	単位数：2単位	オフィスアワー：火曜日5限目
ナンバリング：DH32602	該当DP：1-②③、2-①②③、3-①②③④	

授業の到達目標及びテーマ
①保育士として必要な資質、能力、技術について理解し説明できる。 ②施設利用者の生活実態にふれ、支援の必要性について説明できる。
授業の概要
「保育実習Ⅲ」では、児童福祉施設（保育所以外）、その他の社会福祉施設での養護についての専門的な理解と技術を学び、児童家庭福祉及び社会的養護に対する理解をもとに、保護者支援、家庭支援のための知識、技術、判断力を養う。保育実習Ⅲを履修するためには、「保育実習参加資格」の条件を満たさなければならない。また、「保育実習」を終えておかなければならない。
事前学習及び事後学習
・保育実習の施設実習の反省点や自分の課題をまとめておくこと。 ・絵本やペープサート、運動遊びなどの保育実技を学習すること。 ・授業後にレポートを作成し、学習内容を深める。（各回授業の予習・復習時間は60分）
授業計画
保育実習Ⅲでは、既習の教科目や保育実習の経験を踏まえ、以下の観点から保育士としての実践力を高めていくよう努める。 1. 児童福祉施設やその他の社会福祉施設の社会的役割や保育士の役割について理解を深める。 2. 児童福祉施設やその他の社会福祉施設における子ども（利用者）と家族支援の理解 3. 養護内容・方法の理解 4. 多様な専門職との連携 5. 地域社会との連携・協働 6. 保育士としての自己課題の明確化 子ども（利用者）との関わりを持ち、援助の仕方を工夫するよう努めること。
定期試験　実施しない

学生に対する評価
①実習日誌などの提出物：40%、②実習園の評価：40%、③勤務状況等：20%
テキスト
石橋裕子・林幸範（編著）、『改訂版 知りたいときにすぐわかる　幼稚園・保育所・児童福祉施設実習ガイド』、同文書院、2018年、2160円
参考書・参考資料など
参考資料は適宜配布する。

授業科目名:保育実習事前事後指導Ⅱ	開講時期：2年・前期	授業区分：保育士必修
担当者名：教授　大津泰子	授業形態：演習	授業回数：15回
授業コード：218	単位数：1単位	オフィスアワー：月曜日5限目
ナンバリング：DH32603	該当DP：1-②、2-①③、3-①②③④	

授業の到達目標及びテーマ
保育実習事前事後指導Ⅱでは、保育実習Ⅰでの自己評価と今後の課題・学習目標について整理する。さらに、保育実習Ⅱにむけて、指導計画作成・実践・評価や子育て支援、多様な保育など総合的な保育士の役割について理解する。事後学習では、実習内容の振り返りを行い、自己評価に取り組む。 到達目標は以下の通りである。 ・「保育実習事前事後指導Ⅰ」「保育実習Ⅰ（保育所）」、またその他の教科で学習した内容を基盤に、保育所の理解、子どもや家庭への支援について理解を深める。 ・指導計画の作成や記録など保育の実践力を習得する。 ・保育士としての自己の課題を明確化する。
授業の概要
保育実習Ⅰ（保育所実習）での自己評価と課題・学習目標について再度確認する。そして、それに基づき、具体的な事例を通して、実習計画作成、実践、日誌の記録など、より実践的な内容を学習する。さらに、保育実習Ⅱに関する目的を明確にし、保育実習Ⅱの終了には、自己評価と保育士としての自己課題について考察する。 学習方法として、保育実習Ⅱに向けて保育に関する知識や技術をさらに高めるために、教材研究などの実践と資料等を用いて保育所の理解を深めるためのの学習を行う。また、保育士としての倫理観を理解し、保育士としての自己課題を明確化するためのレポート作成や発表会を行う。
事前学習及び事後学習
・保育実習Ⅰの保育所実習の反省点や自分の課題をまとめておくこと。 ・手遊び、歌遊びなどの教材を準備しておくこと ・授業後にレポートを作成し、学習内容の理解を深める。（各回授業の予習・復習時間は60分）
授業計画
1 保育実習Ⅰ（保育所実習）の振り返り①（自己評価）
2 保育実習Ⅰ（保育所実習）の振り返り②（学習目標の設定）
3 保育所の役割と機能
4 保護者・家庭への支援と地域社会との連携
5 子どもの保育の理解　0～2歳児
6 子どもの保育の理解　3歳以上児
7 指導計画の作成①（0～3歳未満児）
8 指導計画の作成②（3歳以上児）
9 教材研究①（発表　グループA）
10 教材研究②（発表　グループB）
11 教材研究③（発表　グループC）
12 保育実習Ⅱに向けた総合理解
13 保育実習Ⅱに関する注意事項
14 保育実習Ⅱに向けた自己課題の明確化
15 保育実習Ⅱに関する自己評価
定期試験　実施する

学生に対する評価
①実習事前・事後レポート：20%、②定期試験：20%、③レポート：20%、④教材研究等の発表：20%、⑤積極的な授業への参加（自発的な発表、学内ガイダンスへの出席は必須。全体の5分の4以上の出席は必須）：20%
テキスト
内閣府・文科省・厚労省、『平成29年告示　幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領＜原本＞』、チャイルド本社、2017年、540円 厚生労働省、『保育所保育指針解説書（平成30年）』、フレーベル社、2018年、346円 石橋裕子・林幸範（編著）、『改訂版 知りたいときにすぐわかる　幼稚園・保育所・児童福祉施設実習ガイド』、同文書院　2018年、2160円
参考書・参考資料など
参考資料は適宜配布する。

授業科目名:保育実習事前事後指導Ⅲ	開講時期：2年・前期	授業区分：保育士必修
担当者名：准教授　渡邊　暁	授業形態：演習	授業回数：15回
授業コード：219	単位数：1単位	オフィスアワー：火曜日5限目
ナンバリング：DH32604	該当DP：1-②、2-①②③、3-①②③④	

授業の到達目標及びテーマ
①保育実習の意義と目的を理解し、保育について総合的に理解し、実践力を習得する。 ②最善の利益を基礎とした児童福祉施設における保育と養護の理解を深める。 ③保育実習Ⅲに対する心構えを持ち、実習課題を明確にできる。 ④保育士の業務内容や職業倫理について理解を深める。 ⑤保育実習Ⅲの事後指導として、自己評価を行い、保育士としての自己の課題を明確にできる。
授業の概要
この教科では、保育実習Ⅰ(施設実習）での自己評価と課題・学習目標について再度確認する。そして、それに基づき、具体的の事例を通して、実習計画作成、日誌の記録などより実践的な内容を学習する。さらに、保育実習Ⅲの終了後には、自己評価と保育士としての自己課題について考察する。 学習方法として、保育実習Ⅲに向けて、養護と療育に関する知識や技術をさらに高めるために、教材研究などの実践と資料等を用いて、児童福祉施設の理解を深めるための学習を行う。また、保育士としての倫理観を理解し、保育士としての自己課題を明確化するためのレポート作成や発表会を行う。
事前学習及び事後学習
・保育実習Ⅰの施設実習の反省点や自分の課題をまとめておくこと。 ・絵本やペープサート、運動遊びなどの保育実技を学習すること。 ・授業後にレポートを作成し、学習内容を深める。 ・（各回授業の予習・復習時間は60分）
授業計画
1 保育実習Ⅰ（施設実習）の目的と内容
2 保育実習Ⅰ（施設実習）における実習課題の明確化
3 児童福祉施設の役割と機能
4 家族への支援と地域社会との連携
5 子ども(利用者）の最善の利益と養護の理解
6 施設と利用者を取り巻く環境
7 自立支援計画の作成
8 実習日誌の記入の仕方
9 児童養護施設における支援
10 乳児院・母子生活支援施設における支援
11 障害児・者施設における支援
12 保育実習Ⅲに向けた総合理解
13 保育実習Ⅲに向けた総合理解に関する注意事項
14 保育実習Ⅲに向けた自己課題の明確化
15 授業の振り返り
定期試験　実施する

学生に対する評価
①実習事前・事後レポート：20%、②定期試験：20%、③レポート：20%、 ④教材研究等の発表：20%、⑤授業への参加（学内ガイダンスの参加は必須。全体の5分の4以上の出席は必須）：20%
テキスト
石橋裕子・林幸範（編著）、『改訂版 知りたいときにすぐわかる　幼稚園・保育所・児童福祉施設実習ガイド』、同文書院　2018年、 2160円
参考書・参考資料など
適宜配布する。

授業科目名:保育の心理学	開講時期：2年・前期	授業区分：保育士必修
担当者名：准教授　木下寛子	授業形態：講義	授業回数：15回
授業コード：220	単位数：2単位	オフィスアワー：火曜日3限目
ナンバリング：DH22201	該当DP：1-③	

授業の到達目標及びテーマ

【テーマ】環境の中の子ども達
【到達目標】保育実践に密接に関連する発達理論等の心理学的知識を学ぶことで次のような状態に至ることを目指す。（1）子ども達の発達を捉え、援助の仕方を導き出す視点をもつ。（2）養護と教育の一体性の意義がわかる。（3）子どもの学びと育ちにとっての、保育の場に展開する人との関わりあい、体験、環境の意味を明らかにする視点・観点をもつ。

授業の概要

受講者の皆さんはその人生の過程を，子ども達に関わり育む者の一人（保育者）として，今子ども時代を終えて新たな一歩を踏み出そうとしています。しかしながらそのためには、多様な子ども達の学びと育ちを的確に見極め理解し、支援の手立てや方法を自分で考えだすための視点や観点、基本的態度、そして方法が必要になります。なぜならば、子ども達の姿を漫然と眺めているだけでは、自らの実践的を導き出すだけの手がかりは決して得られないからです。本講義では、発達心理学の諸理論の知見を学び、子ども達が園や家庭という環境の中で様々な経験をし、行為するところに織り出されていく学びや育ちをひとつひとつ解きほぐして理解する力を養っていきたいと思います。

事前学習及び事後学習

【予習】実習や日常生活の中で、①子どもと関わり手（養育者・保育者など）の日常的な姿をよく見て，見たことと考えたことをメモしておくことをおすすめする。②授業前にシラバスに記載のキーワードを必ず確認し，言葉を覚えておくこと。【復習】学んだ内容をキーワードを中心によく吟味し，子どもの育ちに関する具体的事象を挙げて，自分なりにその理解ができるようになるように努めること。（各回授業の予習・復習時間は60分）

授業計画

1 オリエンテーション：育てられる者から育てる者へ

2 発達を捉える視点①：子どもの発達を理解することの意義

3 発達を捉える視点②：子どもの発達と環境

4 子どもの発達過程①：発達心理学の基本事項としての感情・自我について学び、その発達的展開を理解する

5 子どもの発達過程②：発達心理学の基本事項としての身体的機能と運動機能の側面を理解し、その発達的展開を理解する

6 子どもの発達過程③：発達心理学の基本事項としての知覚と認知について学び、その発達的展開を理解する

7 子どもの発達過程④：発達心理学の基本事項としての言葉・社会性について知り、その発達的展開を理解する

8 遊びの発達①：見立て遊び成立までの遊びの発達的変化を追跡し、遊びを発達心理学的に分析する目と力を養う

9 遊びの発達②：ごっこ遊び成立までの遊びの発達的変化を追跡し、遊びを発達心理学的に分析する目と力を養う

10 遊びの発達③：状況によっておおきく変容する遊びの在り方を事例をもとに理解し、保育者として遊びを見守ることの意味を考える

11 乳幼児期の学びに関わる理論：乳幼児期に何をどのように学ぶのか、理論の基礎を学ぶ。

12 乳幼児期の学びの過程と特性：乳幼児期の学びはどのような特徴を持ってどう展開するか、文化的多様さに触れつつ理解する。

13 乳幼児期の学びを支える保育：乳幼児期の学びを保育者はどのように支えていく必要があるか。学校的学びとの対比から理解する。

14 遊んでぼくらは人間になる：養育者の撮影した映像や園の日々を捉えたドキュメンタリーをもとに、子どもの学びについて議論する。

15 総括：これまでの内容を、保育の場で子どもを理解し援助することの意義に照らして総括する。

定期試験　実施する

学生に対する評価

期末筆記試験：70%，基礎知識に関する小テスト・レポート：20%，授業への積極的参加：10%

（期末筆記試験の内容は、①用語の確認、②事例検討、③保育の場と発達心理学の関連性を問うもの。）

テキスト

指定しない。随時資料を配布する。

参考書・参考資料など

杉村伸一郎・白川佳子・清水益治、『保育の心理学I（基本保育シリーズ）』、中央法規、2015年、2160円

授業科目名:青年心理学	開講時期：1年後期	授業区分：保育士選択
担当者名：准教授　橋本　翼	授業形態：講義	授業回数：15回
授業コード：221	単位数：2単位	オフィスアワー：火曜日5限目
ナンバリング：DH22802	該当DP：2-①、3-②	実務経験のある教員による科目

授業の到達目標及びテーマ
・乳児期から青年期に至る発達の連続性を理解し説明できる。 ・生涯発達の視点を持った上で幼児期の子どもの保育を行うことの意義について理解する。 ・青年期の発達課題や精神病理に関する知識を獲得する。
授業の概要
まず乳幼児期から青年期に至る心理面の発達について学ぶ。さらに青年期の心理発達の特徴、身体の発達、自己形成、人間関係、社会的発達、青年期の心理的援助について講義およびグループワークを通して学んでいく。現代青年特有の課題（インターネット依存等）についても理解を深める。
事前学習及び事後学習
日頃からニュースなどに目を通し、青年期特有の問題行動や社会問題などの関して関心を持つようにする。さらに「どうしてそういうことが起こるのか。」「どのようにすればその問題を解決できるか」自分なりに考えること。（各回授業の予習・復習時間は60分）
授業計画
1 青年心理学とは（イントロダクション）
2 青年心理学の歴史
3 青年期の心身の発達
4 思春期の心理と思春期特有の問題
5 青年期の自己形成（アイデンティティの獲得）
6 演習（アイデンティティに関する体験的理解）
7 青年期における自立（家族との関係）
8 青年期の友人関係
9 青年期の恋愛と結婚
10 親になるということ（青年期から成人期へ）
11 青年と現代文化
12 青年期特有の精神疾患
13 青年期のメンタルヘルス
14 グループ討議（青年期特有の問題への解決策を考える）
15 青年心理学を保育実践に生かすために
定期試験　　実施する

学生に対する評価
小テスト：20% 、各授業の感想等：30%、定期試験：50%
テキスト
特に指定しない。適宜資料を配布する。
参考書・参考資料など
白井利明（編著）、『よくわかる青年心理学　第2版』、ミネルヴァ書房、2015年、2500円

授業科目名:乳幼児心理学	開講時期：1年・後期	授業区分：保育士選択
担当者名：准教授　木下寛子	授業形態：講義	授業回数：15回
授業コード：222	単位数：2単位	オフィスアワー：火曜日3限目
ナンバリング：DH22801	該当DP：1-③	

授業の到達目標及びテーマ

【テーマ】「社会・文化のなかの人間」
【到達目標】①心理学理論の基本前提・基本枠組みと現在の日本の社会における心理学の位置を理解し、②個々の事象に即して批判的な観点を持つ。③特に、発達的事象とその理解を支える発達論や道具については、個別の発達論の射程の中に収めず、広い視野から捉える観点を養う。

授業の概要

現在の日本の社会は、子どものためにこれまで以上に人間の心理学的な理解とそれに基づく支援を重視する価値観を増大させています。しかしながら、心理学の諸理論は十全に人間を理解するには至っておらず、その理論が価値勘に浸透するとき、文化・社会をどのように変容させるかは未知数です。本講義では、心理学諸理論の様々な分析単位を取り上げて、心理学諸理論の基本前提・基本枠組みを知り、発達的事象とその理解の裾野を広げ、人間理解の諸可能性を広げるための道筋を探りたいと思います。また人を理解するための心理学の具体的方法を体験し、特に観察・記述の方法の基本的なレッスンを行ないます。

事前学習及び事後学習

【予習】①子どもと関わり手（養育者・保育者など）の日常的な姿をよく見て，見たことと考えたことをメモしておくことをおすすめする。②授業前にシラバスに記載のキーワードを必ず確認し，言葉を覚えておくこと。【復習】学んだ内容をキーワードを中心によく吟味し，個々の概念に関連する具体的事象を挙げて，自分なりにその理解ができるようになるように努めること。（各回授業の予習・復習時間は60分）

授業計画

1 心理学の基本原理：刺激と反応，レヴィンの生活空間論

2 機械と違う人間ができること(1)：視覚の実験から機械とは異なる固有の反応を示す人間の心の機能を理解する

3 機械と違う人間ができること(2)：記憶の実験から人間固有の心の働きを理解する

4 発達論の前提(1)：ピアジェとヴィゴツキー…ピアジェの認知発達の基本枠組みから発達論の諸前提を明らかにする

5 発達論の前提(2)：ピアジェとヴィゴツキー…ヴィゴツキーの発達論から関係の中で認知発達を理解する基本枠組みを理解する

6 発達論の前提(3)：個体能力発達と関係発達…社会に浸透した素朴な発達観を批判的に捉える態度を養う

7 関係性の中で育つ子ども：二者の間に形成される「愛着」とその発達について理解する。質問紙法を経験し、その特徴を掴む。

8 文化・状況の学び：三項関係の仕組みを知り、意味をくみ取り状況を掴む方法としての三項関係の意義を理解する。

9 文化・状況の学び：三項関係を支えるものは何か。その成立に不可欠な発達的要素を学ぶ。

10 出会いの心理学：人は出会った瞬間に相手の性格や人柄を推論している。印象形成について学び、対人関係に働く心の癖を理解する。

11 集団の力：集団（クラス・組織）は良くも悪くも人に大きな影響力を持つ。その基本性格を理解する。

12 現場を観察し、記述する(1)：現場のなかで自らも振る舞いながら出来事を記述する方法の要諦を学ぶ

13 現場を観察し、記述する(2)：実際に具体的な現場の観察と記述を試し、保育現場での生かし方を考える。

14 調査法：心理学の調査法―「見る（観察法）」「聞く（面接法・質問紙）」「確かめる（実験法）」の特徴・問題点を整理する。

15 総括：乳幼児心理学の半年間の授業を総括し、日常生活に位置づけて再解釈を行なう。

定期試験　実施する

学生に対する評価

期末筆記試験：60%、基礎知識に関する小テスト・レポート：20%、授業への積極的参加：20%

（期末筆記試験では、基本的な用語および心理学の諸理論の基本枠組み、およびその理解を問う。）

テキスト

指定しない。随時資料を配付する。

参考書・参考資料など

鯨岡 峻・鯨岡 和子、『よくわかる保育心理学』（やわらかアカデミズム・わかるシリーズ）、ミネルヴァ書房、2004年、2592円

授業科目名: 子どもの保健	開講時期：2年・前期	授業区分：保育士必修
担当者名：准教授　辻　雅善	授業形態：講義	授業回数：15回
授業コード：223	単位数：2単位	オフィスアワー：授業終了後
ナンバリング：DH22203	該当DP：1-②③、2-①	

授業の到達目標及びテーマ
子どもの健康を医学的視点と社会的視点から考え、保育において適切な保健活動を実践できる素地を形成する。
授業の概要
保育における保健活動においては、子どもの病気の対応と同時に、病気の予防や健康の維持増進に向けた活動を展開することが重要である。保健活動を展開するためには、保育者は、子どもの発育発達状態、子どものかかりやすい疾病とその予防、子どもを取り巻く環境及び他職種間との連携・協働の意味と必要性を理解しておくことが求められる。本講義を通して、子どもの保健を展開する上で必要な知識および考え方を身につけ、将来、保育者として従事した際の保健活動の実践に役立てることをねらいとする。
事前学習及び事後学習
本授業では、授業計画に沿って提示するテーマについて学生主体の能動型授業（グループディスカッション、プレゼンテーション等）を展開する。そのため、テキスト内における授業計画の該当箇所をよく読み理解しておくことが必要である。授業後は授業内容をより深めるため、さらに定期試験に向けて必ず復習することが重要である。 （各回授業の予習・復習時間は60分）
授業計画
1 保健活動の意義と目的
2 健康の概念と健康指標
3 現代社会における子どもの健康
4 子どもの発育と発達①：子どもの身体発育と運動機能の発達
5 子どもの発育と発達②：生理機能の発達
6 健康状態の観察と心身の不調等の早期発見
7 子どもの病気と予防①：新生児の病気、先天性の病気
8 子どもの病気と予防②：循環器、呼吸器、血液、消化器の病気
9 子どもの病気と予防③：アレルギー、免疫、腎泌尿器、内分泌の病気
10 子どもの病気と予防④：脳の病気、その他の病気
11 子どもの病気と予防⑤：感染症，疾病予防の基本と適切な対応
12 発育・発達の把握と健康診断
13 保護者等との情報共有
14 地域における保健活動①：母子保健
15 地域における保健活動②：虐待防止
定期試験　実施する

学生に対する評価
期末試験：50%、参加態度：40%、提出物：10% 主な評価方法は定期試験と授業の参加態度とするが、提出物等も評価の対象とし加点あるいは減点する。厳しく評価するため、相応のモチベーションを持って受講すること。
テキスト
小林美由紀編集，『授業で現場で役に立つ！子どもの保健テキスト』，診断と治療社，2018年，2,000円
参考書・参考資料など
秋山千枝子監修，『子どもがかかりやすい病気とけがの大事典』，くもん出版，2018年，5,400円 林万リ監修，『やさしく学ぶからだの発達』，全国障害者問題研究会，2011年，1,700円 林万リ監修，『やさしく学ぶからだの発達 Part2』，全国障害者問題研究会出版部，2015年，1,700円 笠原麻里監修，『発達障害の子どもの心がわかる本』，主婦の友社，2016年，1,600円 田中康雄監修，『発達障害の子どもの心と行動がわかる本』，西東社，2014年，1,500円 巷野悟郎他編集，『保育のための救急傷病看護ハンドブック』，同文書院，1986年，2,800円

授業科目名:子どもの健康と安全	開講時期：2年・後期	授業区分：保育士必修
担当者名：非常勤講師　田嶋理恵子	授業形態：演習	授業回数：15回
授業コード：224	単位数：1単位	オフィスアワー：授業終了後
ナンバリング：DH32304	該当DP：1-②、2-①	実務経験のある教員による科目

授業の到達目標及びテーマ
・身近な怪我や疾患、事故に対して適切な応急処置及び対応できる。 ・特に保育におけるアレルギー対応及び感染対応と予防について理解でき、関連するガイドラインや近年のデータ等に基づいた保育における衛生管理、事故防止及び安全管理、および災害時の対策が具体的に理解できる。
授業の概要
・保健的観点を踏まえた保育環境及び援助について理解する。保育における健康及び安全の管理、実施体制ならびに保健的対応（子どもの体調不良等に対する適切な対応や感染症対策を含む）について、学生同士モデル人形を使用し、グループワーク、グループ討議を行い身近な疾患や怪我及び事故に対応できるように演習を進めていく（ＤＶＤ学習を含む）。
事前学習及び事後学習
事前にテキストに目を通しておくこと。実習、演習後には必ずレポートを作成し、次回までに提出し、欠席者は実習項目のレポートを次回講義に提出すること。 （各回授業の予習・復習時間は60分）
授業計画
1 保育における保健活動
2 子どもの集団全体の健康と安全・衛星管理
3 子どもの健康及び発育発達状態の把握
4 子どもの健康増進と保育の環境
5 子どもの生活リズム形成（睡眠習慣、食習慣、排泄習慣、清潔習）、衣服と靴の安全
6 沐浴、排泄の世話（おむつ交換の仕方等）乳児の抱き方演習、食事の与え方とミルクの作り方
7 感染症の予防と対策
8 予防接種に関する学習（自分の母子手帳を持参、理解を深める）
9 個別的な配慮を必要とする子どもへの対応
10 事故防止及び健康、安全管理
11 子どもの怪我や急な病気の対応
12 子どもに起こりやすい症状とケア
13 子どもの養育環境と心の健康問題
14 医療・保健センターのネットワーク
15 保育施設における育児、家庭支援
定期試験　実施する

学生に対する評価
定期試験：50%、レポート：30%、実習：20%
テキスト
佐藤益子・中根淳子（編著）、『新版　子どもの保健Ⅱ』、ななみ書房、2018年、2200円
参考書・参考資料など

授業科目名:子ども家庭支援論	開講時期：2年・後期	授業区分：保育士必修
担当者名：准教授　木下寛子	授業形態：講義	授業回数：15回
授業コード：225	単位数：2単位	オフィスアワー：火曜日3限目
ナンバリング：DH32104	該当DP：2-①③	

授業の到達目標及びテーマ
【テーマ】生活の場から始める子育て支援・援助 【到達目標】実践的な判断の基礎となる次の知識・理解の形成を目標とする。 1. 子育て家庭に対する支援の意義・目的を理解する。 2. 保育の専門性を生かした子ども家庭支援の意義と基本について理解する。 3. 子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開について理解する。
授業の概要
子どもの最善の利益を守ることは，子どもが育つ場を大事に守り育てることを意味すると言っても過言でありません。本講義は，保育者としてそのためにできることを考え，そのための基本的な知識と手立てを身に着ける足掛かりを形成します。保育相談支援の基本的知識や方法を基本的な知識として蓄積し、事例に対してできるだけ適切な計画を立てられるようにしていきましょう。
事前学習及び事後学習
【予習】①子どもの育ちと家庭に関する話題は，メディアはもちろん，日常の場にもあふれている。常にそれらの話題に敏感であること。②事前に提示するキーワードを頭に入れておくこと。【復習】子どもの育ちに関する事例に対して，いくつもの理解や手立ての可能性を言語化できるようにして考察を深める。また，支援のための基本的な態度については，日常のコミュニケーションの中で習慣化するように努める。(各回の予習・復習時間は60分)
授業計画
1 子ども家庭支援の意義（1）子ども家庭支援とは（イントロダクション）・意義と必要性
2 子ども家庭支援の意義（2）子ども家庭支援の目的と機能
3 子ども家庭支援の基本（1）保育の特性と保育士の専門性を生かした支援
4 子ども家庭支援の基本（2）子どもの成長の喜びの共有
5 子ども家庭支援の基本（3）保護者および地域の子育て機能の向上に資する支援
6 子ども家庭支援の基本（4）支援の基本的態度：受容的かかわり，自己決定，秘密保持の尊重
7 子ども家庭支援の基本（5）地域の資源の活用と関係機関等との連携・協力
8 子ども家庭支援の基本（6）家庭の状況に応じた支援
9 子ども家庭支援の実際（1）子ども家庭支援の内容と対象
10 子ども家庭支援の実際（2）子ども家庭支援の方法と態度
11 子ども家庭支援の実際（3）子ども家庭支援の計画，記録，評価，カンファレンス
12 保育所における子ども家庭支援の実際（1）保育所等を利用する子ども・家庭の支援
13 保育所における子ども家庭支援の実際（2）地域の子育て家庭への支援
14 児童養護施設等要保護児童の家庭に対する支援
15 総括：子ども家庭支援に関する現状と課題
定期試験　実施する

学生に対する評価
期末筆記試験：70%、基礎知識に関する小テスト・レポート：20%、授業への積極的参加：10% （筆記試験の内容は主に①子ども家庭支援の方法・態度、②事例に即した分析・考察（記述式））
テキスト
菅野幸恵、『あたりまえの親子関係に気づくエピソード65』、新曜社、2012年、1900円
参考書・参考資料など
浜田寿美男、『親になるまでの時間・前編』、ジャパンマシニスト、2017年、1728円

授業科目名:子どもの食と栄養	開講時期：2年・後期	授業区分：保育士必修
担当者名：教授　八尋美希	授業形態：演習	授業回数：30回
授業コード：226	単位数：2単位	オフィスアワー：木曜日4限目
ナンバリング：DH32204	該当DP：1-②	

授業の到達目標及びテーマ
・子どもをめぐる環境と食生活について、保育所における提供ガイドラインを踏まえ、現状と問題を把握する。 ・小児の栄養に関する基本的知識と発育・発達との関連性及び保育所におけるアレルギー対応ガイドラインの重要性を理解する。 ・食品の基礎知識を学び、乳幼児期の発育発達に応じた調理の方法や食事について理解し、実践に繋げられるようになる。 ・保育者として養護及び教育の一体性を踏まえた食育の意義・目的、基本的考え方、その内容等について理解する。
授業の概要
小児期の生理学的特徴を知り、発育・発達にはその段階に応じた栄養を摂取することを食品と調理の学習を通して、食事の重要性を学ぶ。食に関する問題から保育者も自らの食生活を振り返り、食育を実践できる力を演習形式から学び、食育を活動および展開する重要性と実践力を養う。
事前学習及び事後学習
・食に関する話題を新聞やテレビ、食に関する雑誌に目を向け、関心を高めておくこと。 ・これまでの施設実習での食に関する課題をまとめておく。 ・授業後に講義と実習との関連をレポートで復習し、提出すること。（各回授業の予習・復習時間は60分）
授業計画
1 食べることとは－小児栄養の特徴
2 子どもの食生活の現状と課題
3 栄養素の種類と機能
4 食べ物の消化吸収と食事摂取基準
5 食品の成分と分類（食品群）
6 食品の成分と分類（食事バランスガイド）
7 食育基本法、食育の内容
8 乳児期栄養と食生活（1）― 調乳
9 乳児期栄養と食生活（2）― 離乳初期
10 乳児期栄養と食生活（3）― 離乳中期
11 乳児期栄養と食生活（4）― 離乳後期
12 乳児期栄養と食生活（5）― 完了期
13 幼児期栄養と食生活（1）― 1，2歳児
14 幼児期栄養と食生活（2）― 3～5歳児
15 幼児期栄養と食生活（3）― 間食
16 幼児期栄養と食生活（4）― 偏食、食欲不振
17 幼児期栄養と食生活（5）― 幼児の弁当
18 幼児期栄養と食生活（6）― 行事食
19 小児期の疾病と食事
20 障害のある小児の食事
21 学童期－思春期栄養と食生活（1）― 肥満
22 学童期－思春期栄養と食生活（2）― 偏食
23 妊産婦栄養と食生活（1）― 妊娠期の特徴
24 妊産婦栄養と食生活（2）― 食事の内容
25 集団給食演習
26 衛生管理と食事計画 ― 食材と栄養
27 衛生管理と食事計画 ― 作業工程計画
28 実習 ― 弁当
29 実習 ― 弁当
30 弁当の考察と食への課題
定期試験　実施する

学生に対する評価
定期試験：40%、レポートの提出：50%、授業への積極的参加：10%、
テキスト
高野陽・二見大介（編）、『保育ライブラリ　子どもの食と栄養』、北大路書房、2018年、1836円
参考書・参考資料など
安部司、『食品の裏側』、東洋経済新報社、2006年、1512円 小川雄二（編著）、『子どもの食と栄養演習』、建帛社、2017年、2916円 坂本廣子、『五感で学ぶ食育ガイド　キッズ・キッチン』、かもがわ出版、2006年、1836円

授業科目名:保育内容総論	開講時期：1年・前期	授業区分：保育士必修
担当者名：准教授　垂見直樹	授業形態：演習	授業回数：15回
授業コード：227	単位数：1単位	オフィスアワー：月曜日5限目
ナンバリング：DH12301	該当DP：1-②③	

授業の到達目標及びテーマ
①保育所保育の史的展開を踏まえ、保育所保育と子どもをめぐる現状と課題について説明することができる。 ②保育所保育の役割、環境を通して行う保育、保育における遊びの位置づけなどの基本原理について説明でき、実践に反映できる。 ③保育の総合性を踏まえ、指導計画を立案し、実施することができる。 ④子どもの最善の利益について複眼的に思考し、保育実践を批判的に検討することができる。
授業の概要
保育士資格の必修科目である。『保育所保育指針解説書』を中心に、保育をめぐる基礎知識を習得し、基本原理を理解することを目指す。同時に、基本原理を踏まえ、指導計画を立案し、実践する力を養う。講義形式の他、グループワークや受講生同士の議論を通して、保育実践を構築し、批判的に検討できる力の素地を培う。
事前学習及び事後学習
毎回、次回学習のテキスト箇所を指定するので、「マンガ」部分に目を通しておくこと。また、毎回の授業内容について、配布資料を中心に復習すること。『保育所保育指針解説書』を扱う場合には、次回授業での学習箇所を予告するので、事前に目を通して授業に臨むことが望ましい。（各回授業の予習・復習時間は60分）
授業計画
1 オリエンテーションー授業の進め方・講義の全体像・評価方法等についてー
2 日本における子ども・子育てをめぐる現状と課題ー保育の基礎知識①
3 幼稚園・保育所の成立ー保育の基礎知識②
4 保育方法の史的展開と現状ー保育の基礎知識③
5 子どもの発達や生活に即した保育
6 養護及び教育が一体的に展開する保育
7 子どもの主体性を尊重する保育
8 環境を通して行う保育
9 生活や遊びを通した総合的な保育
10 個と集団の発達を踏まえた保育
11 家庭との連携
12 地域との連携
13 小学校との連携
14 保育の多様な展開
15 共生の保育
定期試験　実施する

学生に対する評価
提出物（小レポート等）：20%、定期試験：80%
テキスト
関仁志（編著）、『マンガとアクティブ・ラーニングで学ぶ保育内容総論[第2版]』、教育情報出版、2018年、2270円
参考書・参考資料など
厚生労働省、『保育所保育指針解説書（平成30年）』、フレーベル社、2018年、346円

授業科目名:乳児保育Ⅰ	開講時期：1年・前期	授業区分：保育士必修
担当者名：准教授　木下寛子	授業形態：講義	授業回数：15回
授業コード：228	単位数：2単位	オフィスアワー：火曜日3限目
ナンバリング：DH12302	該当DP：1-②	

授業の到達目標及びテーマ
【テーマ】子ども・子育て支援の場としての乳児保育 【到達目標】①乳児保育の意義、目的、歴史的変遷、および役割を理解する。②乳児保育の現状と課題を理解する。③3歳未満児の発育・発達の過程や特性を踏まえた保育の内容と運営体制について理解する。④乳児保育における職員間、保護者、地域との連携や協働について理解する。以上の①～④を踏まえて乳児保育の場と営みの意味をくみ取ることができる準備状態を整える。
授業の概要
保育園を訪れると、新生児～3歳未満までのたくさんの子ども達が生活している姿を目にします。一見、よく眠りよく食べてニコニコ過ごしている「だけ」に見える子ども達は、3歳以上の子ども達とも異なるめざましい発達・変化のスピードを示します。また家庭で養育される場合と保育園等の集団の中で養育される場合でも、大きく配慮のポイントが変わります。子ども達に適切な配慮・関わりをするために、保育者は、予めしっかりとその発達の在り方について熟知して、関わり方についておおよその見通しをもっておかなくてはなりません。本講義では、乳児保育の意義を明確にした後に、乳児の発達をよく見通し、保育の場の構成について論じます。これによって保育実習時に、乳児が過ごす保育の場に足を踏み入れた時に、実際に保育実践をよく見て、よく学びとるための準備状態を整えましょう。
事前学習及び事後学習
事前準備が必要となる場合があります。随時お知らせしますので，必ず準備を整えてください。また、日常的にインターネットや新聞・図書等で乳児保育に関わる話題に触れるようにしてください。復習としては，学んだ内容を整理する課題を課します。日常での観察や経験、情報収集した内容も含めて良く整理し，自分の目と手を養うように心がけてください。（各回授業の予習・復習時間は60分）
授業計画
1 乳児保育とは何か：意義と目的、歴史的変遷
2 乳児保育の役割と機能
3 乳児保育における養護および教育
4 乳児保育および子育て家庭に対する支援制度
5 乳児保育および子育て家庭をめぐる社会的状況と課題
6 保育所における乳児保育／児童福祉施設における乳児保育／家庭的保育
7 3歳未満児とその家庭を取り巻く環境と子育て支援の場
8 3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育―生活と環境
9 3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育―遊びと環境
10 3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育―保育者の援助・関わり・配慮
11 3歳未満児の保育の場―計画・記録・評価
12 3歳未満児の保育の場―運営体制／職員間の連携・協働
13 3歳未満児の保育の場―保護者との連携・協働
14 3歳未満児の保育の場―自治体や関係機関等との連携協働
15 乳児保育Iのまとめ
定期試験　実施する

学生に対する評価
試験：70%、課題・レポートの提出・評価：20%、授業への積極的参加：10% （筆記試験の内容は乳児保育の基本知識を到達目標に照らして確かめるものとする。）
テキスト
志村聡子（編）、『はじめて学ぶ乳児保育』、同文書院、2018年、2160円
参考書・参考資料など

授業科目名:乳児保育II	開講時期：2年・前期	授業区分：保育士必修
担当者名：准教授　木下寛子	授業形態：演習	授業回数：15回
授業コード：229	単位数：1単位	オフィスアワー：水曜日3限目
ナンバリング：DH22303	該当DP：1-②	

授業の到達目標及びテーマ
【テーマ】乳児保育の実践的理解 【到達目標】①3歳未満児の発育・発達の過程や特性を踏まえた援助や関わりの基本を理解する。②養護と教育の一体性の意味を掴み、乳児保育の方法・環境・配慮の基本を理解する。③乳児保育の計画の作成について具体的に理解する。これらの到達目標の達成を通じて、0歳～3歳までの乳児の全体像をつかみケアの基本を理解する。
授業の概要
乳児保育では、生活の安定を基本において、遊びを大きく広げていくことで、3歳以上の保育につなげていきます。乳児への適切な配慮・関わり、様々な病気や事故・災害から子どもを守って育てるために、乳児特有の発達の状態・過程を知り、ケアや対処の仕方の意味をよく理解して基本的な知識をもって保育の場に臨みましょう。本演習では、乳児保育の基本を乳児期の保育内容と共に学び、乳児の発達を踏まえた援助の具体的な在り方および、病気・事故等の予防の基本を学び、計画への織り込み方を考えます。
事前学習及び事後学習
事前準備が必要となる場合があります。随時お知らせしますので，必ず準備を整えてください。また、日常的にインターネットや新聞・図書等で乳児保育に関わる話題に触れるようにしてください。復習としては，学んだ内容をしっかり理解し，具体的なケースに対する対応方法などを考えることができるようにすることをおすすめします。なお、本授業は、保育内容の5領域や保健分野にもよく関連する総合分野ですので、積極的に他の科目・授業との関連づけをしながら学んでいくようにしてください。（各回授業の予習・復習時間は60分）
授業計画
1 乳児保育における計画の実際：長期指導計画と短期指導計画、デイリープログラム
2 乳児保育における計画の実際：個別的な指導計画と集団の指導計画
3 子どもの一日の生活の流れと保育の環境：発達に応じたデイリープログラムと配慮事項
4 子どもの生活や遊びを支える環境の構成
5 3歳未満児の発育・発達を踏まえた生活と援助の実際
6 3歳未満児の発育・発達を踏まえた遊びと援助の実際
7 子ども同士の関わりとその援助の実際
8 子どもの心身の健康・安全と情緒の安定を図るための配慮：アレルギー、くすり
9 子どもの心身の健康・安全と情緒の安定を図るための配慮：病気の予防　ほか
10 集団の生活における配慮：かみつき・ひっかき等への対応　ほか
11 乳児保育の全体像①：6ヶ月未満児の育ちと保育，個々の子どもに応じた援助・受容的・応答的保育
12 乳児保育の全体像②：6ヶ月～1歳3ヶ月未満の子どもの育ちと保育，子どもと保育士等の関係の重要性
13 乳児保育の全体像③：1歳3ヶ月～2歳未満の子どもの育ちと保育，子どもの主体性の尊重と自己の育ち
14 乳児保育の全体像④：2歳の子どもの育ちと保育，子どもの体験と学びの芽生え
15 総括：乳児保育を発達と保育内容から整理する
定期試験　実施する

学生に対する評価
試験：70%、課題・レポートの提出・評価：20%、授業への積極的参加：10% （筆記試験の内容としては、乳児保育に関する実践的知識を、具体的な状況・事例を読んで適切に関連づけられるかを問う。）
テキスト
志村聡子（編）、『はじめて学ぶ乳児保育』、同文書院、2018年、2160円
参考書・参考資料など

授業科目名:障害児保育	開講時期：2年・前期	授業区分：保育士必修
担当者名：准教授　橋本　翼	授業形態：演習	授業回数：15回
授業コード：230	単位数：1単位	オフィスアワー：火曜日5限目
ナンバリング：DH22305	該当DP：1-②、3-②	実務経験のある教員による科目

授業の到達目標及びテーマ
・障害児保育の理念や歴史を学び、障害児およびその保育について理解する。 ・個々の発達や特性に応じた援助や配慮について理解する。 ・障害児その他特別な配慮を要する子どもの保育に関する現状と課題について理解し、具体的な支援の方法について例示できる。
授業の概要
障害児保育の歴史とインクルーシブ保育の理念について学ぶ。各障害についての理解を演習授業で深めた後、保育現場における障害児保育の実際について事例をもとに学んでいく。また保護者を含めた家庭への支援や他機関の連携のあり方についても学ぶ。
事前学習及び事後学習
事前学習としては、障害児を題材とした本を読んだり障害を取り上げたニュースやテレビ番組に関心を向けておくこと。 授業後に障害児に自分ならどのような保育実践を行うかを考えレポートにまとめること。（各回授業の予習・復習時間は60分）
授業計画
1 障害児保育の歴史と理念
2 障害のある子どもの地域社会への参加・インクルージョン及び合理的配慮の理解
3 演習①：視覚障害体験をもとにした保育実践の工夫
4 言語障害児の理解と保育場面での援助
5 発達障害の理解と保育場面での援助（自閉症スペクトラム障害を中心に）
6 重症心身障害児、医療的ケア児の理解と援助
7 情緒障害児の理解と援助
8 演習②：聴覚障害児への援助を考えるための体験学習
9 演習③：障害児保育を実践に生かす（グループワーク）
10 インクルーシブ保育における個々の発達を促す生活や遊びの環境
11 子ども同士の関りと育ちあい
12 障害児保育における子どもの健康と安全
13 障害児のきょうだいの心理の理解と保育場面での支援
14 障害児保育を支える職員間の連携と共働（保育現場の実践から学ぶ）
15 演習④：保護者への支援（ロールプレイ）
定期試験　実施する

学生に対する評価
各授業後の小レポート及び演習の発表：30%、課題レポート：20%、定期試験：50%
テキスト
テキストは特に指定しない。適宜資料を配布する。
参考書・参考資料など
尾﨑康子・小林真・水内豊和・阿部美穂子（編）、『よくわかる障害児保育　第2版』、ミネルヴァ書房、2018年、2916円

授業科目名:社会的養護Ⅱ	開講時期：2年・後期	授業区分：保育士必修
担当者名：准教授　渡邊　暁	授業形態：演習	授業回数：15回
授業コード：231	単位数：1単位	オフィスアワー：火曜日5限目
ナンバリング：DH32306	該当DP：2-①、3-①②③④	実務経験のある教員による科目

授業の到達目標及びテーマ
子どもの理解と社会的養護の原理・原則を踏まえて、以下の5点に重点を置く。 1. 子どもの理解を踏まえた養育支援と社会的養護のもとで生活する子どもの家庭環境について理解できる。 2. 施設養護と家庭養護の支援の対象や生活の特性について理解できる。 3. 自立支援計画や養護計画の理解と簡単な作成を行える。　4. 社会的養護の領域において求められる相談援助の知識や技術を理解できる。 5. 子ども虐待防止と「家庭を支援する」とはどういうことか理解できる。
授業の概要
家庭的養護と施設の小規模化、ソーシャル・インクルージョンの拡がりの中で、居住型の児童福祉施設における養護の理解を深める。障害や虐待により人との信頼関係構築が難しい児童・家族を支援するための知識や相談援助の技能を取得させるとともに、施設養護観の形成を目指す。
事前学習及び事後学習
・事前学習として新聞やテレビ、ネットなどを観て、社会で起こっていることを情報収集する。また、テキストや配布資料、授業内で提示した文献を参考に学習を深める。事後学習として様々な課題に対して、個人またはグループで検討しレポートを提出する。 （各回授業の予習・復習時間は60分）
授業計画
1 子どもの権利擁護　子どもの最善の利益について考える
2 里親制度の特性と養育の実際
3 乳児院の養育をめぐる状況と支援の実際
4 児童養護施設の養育をめぐる状況と支援の実際
5 ファミリーホームの養育をめぐる状況と支援の実際
6 ひとり親家庭、母子生活支援施設と支援の実際
7 情緒障害のある子どものための施設と治療的支援の実際
8 障害児施設（入所・通所）の療育と支援の実際
9 自立支援計画　子どもへの支援における記録について
10 里親・ファミリーホームと専門機関とのつながり
11 虐待された子どもへの支援
12 相談援助の実際（施設と家族との関わり・親子関係の調整）
13 施設と地域との連携について
14 児童福祉施設における課題
15 授業内容の振り返り
定期試験　実施する

学生に対する評価
試験結果：50%、レポート課題：30%、授業への積極的参加：20%
テキスト
吉田眞理（編著）、『児童の福祉を支える社会的養護Ⅱ』、萌文書林、2019年、2160円
参考書・参考資料など
小木曽宏・宮本秀樹・鈴木崇之（編）、『よくわかる社会的養護内容 第3版』、ミネルヴァ書房、2015年、2592円 鬼﨑信好・本郷秀和・渡邊暁他、『コメディカルのための社会福祉概論』、講談社、2018年、2592円

授業科目名:ピアノⅠ	開講時期：1年・前期	授業区分：学科指定
担当者名：教授　久世・准教授　平松 非常勤講師　香月　久我　村中　山下	授業形態：演習	授業回数：15回
授業コード：232	単位数：1単位	オフィスアワー：授業終了後
ナンバリング：DH12903	該当DP：1-②	

授業の到達目標及びテーマ
保育者・教育者として必要な、基礎的なピアノ演奏技術及び読譜力を習得する。ピアノを弾くための指の基礎を作り、バイエル程度の難易度のピアノ曲を演奏することが出来る。また、子どもの歌を簡易伴奏及びコード伴奏で弾くことが出来る。ト音譜表及びヘ音譜表を即時に読むことが出来る。
授業の概要
ピアノを弾くための基礎習得に主眼を置き、指のためのテクニック、ピアノ練習曲、附属幼稚園実習曲、子どもの歌の伴奏法を学ぶ。また、読譜力が身に付くよう、読譜トレーニングやリズムトレーニングをおこなう。 個人レッスン及びグループレッスンの形態で授業をおこない、個人の進度に合わせて学習を進めていく。
事前学習及び事後学習
毎回、課題曲の予習・復習をおこなうこと。（各回授業の予習・復習時間は60分）
授業計画
1 授業説明、ハ長調のコード①、基礎練習曲①、読譜・リズムトレーニング①
2 ハ長調のコード②、基礎練習曲②、読譜・リズムトレーニング②
3 ハ長調のコード③、基礎練習曲③、読譜・リズムトレーニング③
4 ハ長調のコード④、基礎練習曲④、読譜・リズムトレーニング④
5 ハ長調のコード⑤、基礎練習曲⑤、読譜・リズムトレーニング⑤
6 ト長調のコード①、附属幼稚園実習曲①、読譜・リズムトレーニング⑥
7 ト長調のコード②、附属幼稚園実習曲②、読譜・リズムトレーニング⑦
8 ト長調のコード③、附属幼稚園実習曲③、読譜・リズムトレーニング⑧
9 ト長調のコード④、附属幼稚園実習曲④、読譜・リズムトレーニング⑨
10 ヘ長調のコード①、子どもの歌簡易伴奏①、読譜・リズムトレーニング⑩
11 ヘ長調のコード②、子どもの歌簡易伴奏①、読譜・リズムトレーニング⑪
12 ヘ長調のコード③、子どもの歌簡易伴奏①、読譜・リズムトレーニング⑫
13 二長調のコード①、子どもの歌簡易伴奏④、読譜・リズムトレーニング⑬
14 二長調のコード②、試験課題曲①、読譜・リズムトレーニング⑭
15 二長調のコード③、試験課題曲②、読譜・リズムトレーニング⑮
定期試験　実施する

学生に対する評価
実技試験：80%、読譜及びリズムのミニテスト：20%
テキスト
平松愛子、『ピアノ教本』、近畿大学九州短期大学、2017年、500円 鈴木恵津子・冨田英也他（編）、『ポケットいっぱいのうた』、教育芸術社、2016年、2160円
参考書・参考資料など
プリント配布

授業科目名:ピアノⅡ	開講時期：1年・後期	授業区分：学科指定
担当者名：教授　久世・准教授　平松 非常勤講師　香月　久我　村中　山下	授業形態：演習	授業回数：15回
授業コード：233	単位数：1単位	オフィスアワー：授業終了後
ナンバリング：DH22904	該当DP：1-②	

授業の到達目標及びテーマ
保育者・教育者として必要な、ピアノ技術の応用力及びピアノ弾き歌い技術、読譜に関する応用力を習得する。指のテクニックをさらに強化するとともに、様々な子どもの歌の弾き歌いができるようになる。簡易伴奏にアレンジして弾くことができる。
授業の概要
季節の歌、生きものの歌、生活・行事の歌など、様々な子どもの歌の弾き歌いに取り組む。個人レッスン及びグループレッスンの形態で授業をおこない、個人の進度に合わせて学習を進めていく。読譜力のさらなる強化のため、継続して読譜トレーニングをおこなう。保育実習及び教育実習で弾くピアノ曲の対策もおこなう。
事前学習及び事後学習
毎回、課題曲の予習・復習をおこなうこと。（各回授業の予習・復習時間は60分）
授業計画
1 授業説明、夏休み課題のグループ内発表、読譜・リズムトレーニング①
2 ハ長調のコード復習①、子どもの歌（秋の歌①）、読譜・リズムトレーニング②
3 ハ長調のコード復習②、子どもの歌（秋の歌②）、読譜・リズムトレーニング③
4 ト長調のコード復習①、子どもの歌（冬の歌①）、読譜・リズムトレーニング④
5 ト長調のコード復習②、子どもの歌（冬の歌②）、読譜・リズムトレーニング⑤
6 ヘ長調のコード復習①、子どもの歌（春の歌①）、読譜・リズムトレーニング⑥
7 ヘ長調のコード復習②、子どもの歌（春の歌②）、読譜・リズムトレーニング⑦
8 ニ長調のコード復習①、子どもの歌（夏の歌①）、読譜・リズムトレーニング⑧
9 ニ長調のコード復習②、子どもの歌（夏の歌②）、読譜・リズムトレーニング⑨
10 イ短調のコード復習①、子どもの歌（生きものの歌①）、読譜・リズムトレーニング⑩
11 イ短調のコード復習②、子どもの歌（生きものの歌②）、読譜・リズムトレーニング⑪
12 子どもの歌（生活・行事の歌①）、読譜・リズムトレーニング⑫
13 子どもの歌（生活・行事の歌②）、読譜・リズムトレーニング⑬
14 試験課題曲①、読譜・リズムトレーニング⑭
15 試験課題曲②、読譜・リズムトレーニング⑮
定期試験　実施する

学生に対する評価
実技試験：80%、読譜及びリズムのミニテスト：20%
テキスト
平松愛子、『ピアノ教本』、近畿大学九州短期大学、2017年、500円 鈴木恵津子・冨田英也他（編）、『ポケットいっぱいのうた』、教育芸術社、2016年、2160円
参考書・参考資料など
プリント配布

授業科目名:ピアノⅢ	開講時期：2年・前期	授業区分：学科指定
担当者名：教授　久世・准教授　平松 非常勤講師　香月　久我　村中　山下	授業形態：演習	授業回数：15回
授業コード：234	単位数：1単位	オフィスアワー：授業終了後
ナンバリング：DH22905	該当DP：1-②	

授業の到達目標及びテーマ
保育者・教育者として必要な、ピアノ技術、伴奏技術、ピアノ弾き歌い技術を習得する。コードネームを見て伴奏が弾くことができるようになる。臨機応変に伴奏をアレンジし、弾き歌いができるようになる。初見演奏（簡単なメロディと伴奏）ができるようになる。
授業の概要
これまでに取り組んできた子どもの歌の譜面をもとに、コードネームを見て伴奏が弾けるよう、さらに臨機応変にアレンジもできるよう、さらなる伴奏及び弾き歌い技術の向上をめざす。個人レッスン及びグループレッスンの形態で授業をおこない、個人の進度に合わせて学習を進めていく。初見演奏ができるよう読譜力の向上を図るためのトレーニングをおこなう。採用試験におけるピアノ実技試験対策もおこなう。
事前学習及び事後学習
毎回、課題曲の予習・復習をおこなうこと。（各回授業の予習・復習時間は60分）
授業計画
1 授業説明、春休み課題のグループ内発表、読譜・リズムトレーニング①
2 コードネームの確認、読譜・リズムトレーニング②
3 ハ長調のコード①（主要３和音で弾く子どもの歌①）、読譜・リズムトレーニング③
4 ハ長調のコード②（主要３和音で弾く子どもの歌②）、読譜・リズムトレーニング④
5 ハ長調のコード③（様々な子どもの歌①）、読譜・リズムトレーニング⑤
6 ハ長調のコード④（様々な子どもの歌②）、読譜・リズムトレーニング⑥
7 ト長調のコード①（主要３和音で弾く子どもの歌）、読譜・リズムトレーニング⑦
8 ト長調のコード②（様々な子どもの歌）、読譜・リズムトレーニング⑧
9 ヘ長調のコード①（主要３和音で弾く子どもの歌）、読譜・リズムトレーニング⑨
10 ヘ長調のコード②（様々な子どもの歌）、読譜・リズムトレーニング⑩
11 二長調のコード①（主要３和音で弾く子どもの歌）、読譜・リズムトレーニング⑪
12 二長調のコード②（様々な子どもの歌）、読譜・リズムトレーニング⑫
13 イ短調・その他の調（様々な子どもの歌）、読譜・リズムトレーニング⑬
14 試験課題曲①、採用試験対策①、読譜・リズムトレーニング⑭
15 試験課題曲②、採用試験対策②、読譜・リズムトレーニング⑮
定期試験　実施する

学生に対する評価
実技試験：80%、読譜及びリズムのミニテスト：20%
テキスト
平松愛子、『ピアノ教本』、近畿大学九州短期大学、2017年、500円 鈴木恵津子・冨田英也他（編）、『ポケットいっぱいのうた』、教育芸術社、2016年、2160円
参考書・参考資料など
プリント配布

授業科目名:実技演奏	開講時期：1年・後期	授業区分：保育士選択
担当者名：教授　久世・准教授　平松 非常勤講師　宮田　山下	授業形態：演習	授業回数：15回
授業コード：235	単位数：1単位	オフィスアワー：授業終了後
ナンバリング：DH22906	該当DP：1-②	

授業の到達目標及びテーマ
・ピアノ以外の楽器に触れ、基礎的な奏法を習得する。 ・音楽会に向けての練習、発表を通して感受性を豊かにし、音楽表現の幅を広げる。 ・アンサンブルを通して協働の必要性を理解する。
授業の概要
4つのジャンルから選択し実践する。最終的には総合発表会において演奏を行う。ジャンルは下記の通りである。 ・管楽器（フルート、クラリネット、サクスフォンほか）・エレクトーン・クワイヤーチャイム・ギター
事前学習及び事後学習
会場準備、チューニングを早めに行い、音階練習、運指の練習などの基礎練習を繰り返す。
授業計画
1 オリエンテーション（ジャンルの選択）
2 基礎練習（楽器の取り扱い・仕組みについて）
3 基礎練習（奏法・音階と運指）
4 基礎練習（小エチュード）
5 基礎練習（アンサンブル）
6 基礎練習・総合発表会パート分け
7 基礎練習（パート練習①）
8 基礎練習（パート練習②）
9 中間発表・進捗確認
10 パート練習（直し）
11 アンサンブル（アナリーゼ）
12 アンサンブル（テンポ・部分練習）
13 アンサンブル（バランス確認・通し練習）
14 アンサンブル（通し練習）
15 最終確認・調整
定期試験　実施しない

学生に対する評価
総合発表会評価：70%、授業への積極的参加（質問・中間発表会など）：30%
テキスト
各ジャンルごとに練習曲、演奏曲の楽譜は配布する。
参考書・参考資料など

授業科目名:言語表現	開講時期：1年・後期	授業区分：保育士選択
担当教員名：准教授　皆川　晶	授業形態：演習	授業回数：15回
授業コード：236	単数：1単位	オフィスアワー：水曜日5限目
ナンバリング：DH22902	該当DP：1-②、2-②	

授業の到達目標及びテーマ
・保育における言語表現について、基礎的知識・技術を習得する。 ・言語表現活動が子どもの人間形成に果たす意義を理解する。 ・絵本についての視野を広げ、表現力豊かな実演を行うことができる。
授業の概要
絵本に多く接し、保育者として物語を吟味し分析する力を養う。言葉に対する感覚を豊かにする活動について理解を深める。よみきかせや言葉遊びの実演を体験することにより、表現技術の実践力を養う。
事前学習及び事後学習
日頃から幅広い視点で絵本や物語に親しみ、言語表現の豊かさに触れること。（各回授業の予習・復習時間は60分）
授業計画
1 子どもの言葉と表現力
2 子ども・保育者の言葉（グループワーク）
3 保護者への言葉（グループワーク）
4 遊びと言葉
5 絵本の魅力
6 絵本と子どもの育ち
7 よみきかせの魅力
8 よみきかせの実践
9 よみきかせの実践と評価
10 絵本の紹介ポスターを作る
11 「それから昔話」を作る
12 言葉遊び（すごろく）①構想を練る
13 言葉遊び（すごろく）②制作
14 言葉遊び（すごろく）③仕上げ
15 言葉と表現力についての総括
定期試験　実施しない

学生に対する評価
作品：40%、レポート：40%、成果発表：20%
テキスト
使用しない。毎回資料を配付する。
参考書・参考資料など
川端有子、『児童文学の教科書』、玉川大学出版部、2017年、2484円

授業科目名:児童文化	開講時期：2年・後期	授業区分：保育士選択
担当者名：准教授　皆川　晶	授業形態：演習	授業回数：15回
授業コード：237	単位数：1単位	オフィスアワー：水曜日5限目
ナンバリング：DH32901	該当DP：2-②、3-②	

授業の到達目標及びテーマ
・子どもの発達と遊びについて、知識と技術を学ぶ。 ・子どもが児童文化に親しむ保育環境を知る。 ・子どもが遊びや表現活動を通して児童文化に親しむ環境作りや教材作りを習得する。
授業の概要
児童文化に親しみ、子どもの成長と文化の関わりについて学ぶ。保育者としての役割を理解し、児童文化の表現技術の実践力を養う。
事前学習及び事後学習
日頃から児童文化に親しみ、遊びの感性を養うこと。日本の年中行事を通して、家族や社会とのつながりについて理解を深めること。（各回授業の予習・復習時間は60分）
授業計画
1 児童文化とは
2 子どもと遊び
3 子どもと玩具
4 言葉遊び
5 子どもと年中行事
6 年中行事と子どもの遊び
7 児童文化施設と子どもの遊び
8 手作りおもちゃを作る　①構想を練る
9 手作りおもちゃを作る　②制作
10 手作りおもちゃを作る　③仕上げ
11 手作りおもちゃを作る　④実演
12 絵本を作る　①構想を練る
13 絵本を作る　②制作
14 絵本を作る　③仕上げ
15 自作絵本の発表、児童文化についての総括
定期試験　実施しない

学生に対する評価
作品：50%、レポート：40%、成果発表：10%
テキスト
使用しない。毎回資料を配付する。
参考書・参考資料など
萌文書林編集部、『子どもに伝えたい年中行事・記念日』、萌文書林、2015年、1404円

授業科目名:保育科基礎演習	開講時期：1年・前期	授業区分：保育科指定
担当者名：保育科専任教員	授業形態：演習	授業回数：15回
授業コード：238	単位数：2単位	オフィスアワー：火曜日5限目
ナンバリング：DH12001	該当DP：2-①、3-①④	

授業の到達目標及びテーマ
高等教育における学修とは何かを理解し、今後の学修に必要な基礎的知識・スキルを身につける意欲を持つことができる。保育者として身につけておくべき常識や心構えを理解し、保育者としてふさわしい言動をとることができる。
授業の概要
保育科指定科目である。高等教育では、これまでの学習からの質的変換が必要となる。そのような意識を持ち、中等教育までの学習内容を復習し、今後の学修に必要なスチューデントスキルを身につけることで、短大での学修への滑らかな接続を図る。文系的・理系的領域の双方から基礎的な学力の向上・スチューデントスキルの向上を目指し、演習形式で実用可能な知識・技術を磨いていく。また、日常生活や短大、実習先において、保育者としてふさわしい言動をとれるように身につけておくべき常識や心構えを学ぶ。
事前学習及び事後学習
各授業回で指示された課題に積極的に取り組む。また、授業内容を踏まえ、積極的に他の教科目における学修へ応用しようとする意識を持つことが重要である。日常的に保育者としてふさわしい言動をとれるように、授業で提示された常識や心構えを復唱する。 （各回授業の予習・復習時間は60分）
授業計画
1 大学での学修、自己紹介
2 スマホでのきれいな写真の撮り方
3 文章の書き方Ⅰ（文章を書くための基礎知識、文章の読解・要約）
4 プレゼンテーションの方法と実践Ⅰ（写真の取り込み、パワーポイントの使い方）
5 文章の書き方Ⅱ（意見文を書く）
6 卒業生だよりの制作
7 文章の書き方Ⅲ（敬語を身につける、手紙の書き方ーお礼状）
8 プレゼンテーションの方法と実践Ⅱ（課題制作）
9 保育者としての常識・心構えⅠ（日常生活）
10 伝承遊びⅠ（ろくむし、王様ドッヂボール）
11 保育者としての常識・心構えⅡ（SNSの利用）
12 伝承遊びⅡ（グループ1～3による提案、グループワーク）
13 保育者としての常識・心構えⅢ（学校生活、園・施設での実習）
14 伝承遊びⅡ（グループ4～6による提案、グループワーク）
15 プレゼンテーションの方法と実践Ⅲ（課題仕上げ）
定期試験　実施しない

学生に対する評価
レポート60%、小テスト30%、その他の課題提出物10%
テキスト
授業中に適宜プリントを配布する。
参考書・参考資料など
参考書は授業中に紹介する。

授業科目名:保育者論	開講時期：2年・後期	授業区分：保育士必修
担当者名：准教授　垂見直樹	授業形態：講義	授業回数：15回
授業コード：239	単位数：2単位	オフィスアワー：月曜日5限目
ナンバリング：DH32106	該当DP：1-②③	

授業の到達目標及びテーマ
①保育者の役割と倫理について理解し、説明できる。 ②保育者の専門性について理解し、その獲得への見通しをもつことができる。 ③保育者の連携・協働に関する基本を理解し、説明できる。
授業の概要
『保育所保育指針』等に基づき、保育者という専門職として必要な知識・技術とは何か、保育者としての専門性とは何かについて理解し、専門性を自ら高めることのできる保育者を目指す。講義形式を基本とするが、グループワークなどを通して、自分の目指す保育者像についての思索を深める機会を設ける。
事前学習及び事後学習
保育所保育指針等のうち、事前に指定した箇所に目を通しておくこと。講義終了後は、授業中に配布した資料の復習をしておくこと。（各回授業の予習・復習時間は60分）
授業計画
1 保育者論で何を学ぶか―オリエンテーション―
2 保育者の制度的位置づけ―資格・要件・責務―
3 乳幼児期の教育に関する専門性①―役割と職務内容、倫理・基本原理
4 乳幼児期の教育に関する専門性②―資質・能力
5 乳幼児期の教育に関する専門性③―知識・技術・判断
6 乳幼児期の教育に関する専門性④―省察と自己評価
7 保育者の協働①―園内部における連携・協働と同僚性
8 保育者の協働②―園外部の専門機関との連携・協働
9 保育者の協働③―保護者との連携・保護者支援
10 保育者の協働④―地域の中の保育者の役割
11 保育者の資質向上とキャリア形成①―現役保育者の事例から―
12 保育者の資質向上とキャリア形成②―保育者を取り巻く困難とそれへの対処
13 園組織とリーダーシップ
14 どんな保育者を目指すか
15 保育者論における要点の整理と確認
定期試験　実施する

学生に対する評価
レポート課題等提出物：50%、定期試験：50%
テキスト
内閣府・文科省・厚労省、『平成29年告示　幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領＜原本＞』、チャイルド本社、2017年、540円
参考書・参考資料など
上中修、『Professionalを目指す保育者論』、教育情報出版、2019年、2270円

授業科目名: 保育実践演習	開講時期：2年・通年	授業区分：保育士必修
担当者名：保育科専任教員	授業形態：演習	授業回数：30回
授業コード：240	単位数：2単位	オフィスアワー：水曜日5限目
ナンバリング：DH32501	該当DP：1-②、2-①③、3-②	

授業の到達目標及びテーマ
これまでの学修成果を通して保育に関する現代的な課題についての現状分析、考察、検討を行う。また、問題解決のための対応や判断方法などについて学びを深める。最終的に自らの学びをふり返り、保育士として必要な知識・技能を修得したことを確認する。
授業の概要
保育に関わる諸課題【内容】から自分でテーマを設定し、考察、検討を行うとともに、そのテーマについて子どもや保護者を援助し、職員と連携するための技術、方法などについて学修する。さらに、自ら問題を発見し、その問題を解決する過程や解決内容について再検討する手法を習得する。
事前学習及び事後学習
自分のテーマに関する情報収集（文献、インターネットなど）を行い、問題の所在や現状を把握し、焦点化する。自らの問題解決手法（アンケート、インタビュー、参与観察）を用いて研究成果をまとめ、ディスカッションや研究発表の資料をまとめる。（担当教員の指示に従ってください）
授業計画
1 前期オリエンテーション（合同）
2 課題の説明と理解Ⅰ（合同）
3 課題の説明と理解Ⅱ（合同）
4 課題の説明と理解Ⅲ（合同）
5 研究手法に関する理解Ⅰ（情報収集とは何か）（合同） Ⅰ
6 研究手法に関する理解Ⅱ（アンケート、インタビュー、参与観察）（合同）
7 テーマの設定に向けてⅠ（問題関心の整理）（グループワーク）
8 テーマの設定に向けてⅡ（先行研究の検討）（グループワーク）
9 テーマの設定に向けてⅢ（テーマの焦点化）（グループワーク）
10 ディスカッションの資料作成Ⅰ（グループワーク）
11 ディスカッションの資料作成Ⅱ（グループワーク）
12 ディスカッションの実施Ⅰ（研究計画の発表）（グループワーク）
13 ディスカッションの実施Ⅱ（研究計画の発表）（グループワーク）
14 ディスカッションの反省会（グループワーク）
15 前期レポートの提出と検討
16 後期オリエンテーション
17 研究調査の実施（グループワーク）
18 研究調査の実施（グループワーク）
19 研究調査の実施（グループワーク）
20 研究調査の実施（グループワーク）
21 研究調査の実施（グループワーク）
22 研究調査の実施（グループワーク）
23 研究調査の実施（グループワーク）
24 研究調査の実施（グループワーク）
25 研究発表の資料作成（グループワーク）
26 研究発表の資料作成（グループワーク）
27 研究発表の資料作成（グループワーク）
28 研究発表会の資料作成（グループワーク）
29 学内研究発表会（合同）
30 最終レポートの提出
定期試験　実施しない。

学生に対する評価
ディスカッションや研究発表：70%、レポート30％
テキスト
特に指定しない（担当教員の指示に従ってください）。
参考書・参考資料など
内閣府・文科省・厚労省、『平成29年告示　幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領＜原本＞』、チャイルド本社、2017年、540円 また、適宜参考文献を提示し、資料を配付する。

【内容】

担当教員名　金　俊華	テーマ：幼児を対象にした「多文化共生保育」について

日本の保育現場における「異文化間理解」の現状と諸問題について考察する。具体的には、子どもが異文化に親しみを覚えるための遊びや指導法、外国の幼児教育制度などについて文献研究やフィールドワークを行う。

担当教員名　大津　泰子	テーマ：子どもと家庭支援に関する研究

子どもや家庭を取り巻く環境の変化、少子化、貧困、子育て支援、障がいを持つ人々への支援など、子どもと家庭支援に関する課題を見つけていく。さらに、それらの課題に対して、保育者としてどのような支援ができるか考えていく。

担当教員名　三木 一司	テーマ：幼児を対象とした読み聞かせ教材の研究

保育を展開するために使用する紙芝居や絵本などの教材に関する理解を深め、子どもたちに伝えるための技術を検討し、考察することを目的とする。

担当教員名　久世　安俊	テーマ：音から音楽へ～幼児期の音・音楽の関わりから、音楽の教育と音楽表現の探求～

子どもは音に対してどう気づき、どう反応するのか。子どもと音・音楽との関わりを幅広く（胎教、歌唱、歌の歴史、合奏、リズム遊び、ごっこ遊びなど）捉え、幼児期における音楽表現活動の可能性と指導法について考えていく。そのためにも、まずは自身がさまざまな場面で存在する音に関心を持とう。

担当教員名　竹永　亜矢	テーマ：塑造（そぞう）表現と創作　－立体造形から表現活動への展開と実践－

触覚の芸術と言われる塑造（そぞう）には、人間の造形本能を活性化させる魅力があります。このテーマでは、可塑性(かそせい)の素材（粘土・紙等）を使った塑造(そぞう)による立体作品制作の体験から、その魅力と創作への活用、子どもたちの心や体の発達、表現活動に与える影響と効果について実体験から学び、豊かな造形活動を援助できる能力の習得を目指します。

担当教員名　垂見　直樹	テーマ：乳幼児期の教育をめぐる現代的課題

子ども子育て支援制度の課題、就学前段階と小学校との接続、望ましい保育者のあり方など、乳幼児期の教育をめぐる現代的な課題について研究する。文献研究やフィールドワークを通して、保育者としての実践力につながる研究をすることをねらいとする。

担当教員名　平松　愛子	テーマ：「人と音楽」に関する研究

人は、生まれた時からさまざまな「音楽」に触れて成長していく。人は音楽から何を得るのだろうか。子どもの音楽活動、子どもの音楽教育法、音楽あそび、母と子の音楽、福祉の音楽、子どもの歌ピアノ伴奏法など、「音楽」の分野が「人」に与える影響と、その可能性について考えていく。

担当教員名　皆川　晶	テーマ：子どもと言葉・文学について

言葉の基礎は乳幼児期に育まれる。人と言葉の関わり、子どもと保育者の言葉、言葉を育てる手立てについて考える。また、児童文学や絵本、昔話に親しみ、作品分析や子どもへの影響について考える。

担当教員名　髙木　義栄	テーマ：幼児を対象とした環境教育について

学生自らが、子どもを取り巻く環境（地域の自然・社会環境）の理解に必要なフィールドワークを行う。そこで得られた知見を保育現場で実践的指導法として活用できることをねらいとする。

担当教員名　木下　寛子	テーマ：生活世界の冒険―子どもと生きる日々の探究―

生活世界の一端を明らかにし，あらためてその中に保育の場を位置付けて，広い視野から子ども達と豊かな日々を展開させるための素地を形成する研究を行います。保育士等が子どもと出会う場は，とても大事な場ですが，一方で子ども達ひとりひとりの生活から見ると，まだほんの一部分にすぎません。観察法（参与観察・事象・時間見本法など），および文献講読を中心として，具体的な現実に即して子ども（人間）が他者と一緒に生きていく場所（生活世界）の広がりと限界を，具体的な事象から理解する道筋を探求します。

担当教員名　堀田　亮	テーマ：子どもの健康に関する研究

運動や食生活、休養など子どもの健康に関わるさまざまな課題について研究する。研究を通して得られた知見を実際の保育の場で活かすことをねらいとする。

担当教員名　渡邊　暁	テーマ：福祉分野における養護・療育・ケア活動とソーシャルワーク

保育士に必要な養護と療育、ソーシャルワークの視点から、各々が設定した福祉分野のテーマについて分析および検討する。

担当教員名　橋本　翼	テーマ：現代の子どもたちの「こころ」についての理解と対応

子どもに関わる現代的問題（不登園、いじめ、虐待、発達障がい、スマホ依存症など）について心理学的な理解を深め、問題解決のために保育者に求められる専門性とは何かを考えていく。

授業科目名:子育て支援	開講時期：2年・前期	授業区分：保育士必修
担当者名：准教授　渡邊　暁	授業形態：演習	授業回数：15回
授業コード：241	単位数：1単位	オフィスアワー：火曜日5限目
ナンバリング：DH22307	該当DP：2-①、3-①②③④	実務経験のある教員による科目

授業の到達目標及びテーマ
①保育士が行う、子どもの欲求を満たす養護面と成長・発達を支援する教育面をいかした保護者支援について理解できる。 ②子育て支援の展開と関係諸機関との連携について知る。 ③支援者に求められる役割と具体的な子育て支援の方法を検討することができる。
授業の概要
子育てをめぐる生活環境の変化や子育て支援が求められる背景への理解を深める。また、子どもの健やかな育ちを目指した子育て支援の原則や目的、援助技術の方法などについて理解を深める。さらに、保育所等児童福祉施設における保護者支援について、地域の社会資源の活用や関係機関との連携などの具体的事例、演習により体験的に学習していく。
事前学習及び事後学習
日頃から報道や新聞記事、ネットから子育て情報の収集をし関心を深める。事前にテキストや配布資料、授業内で提示した文献を参考に学習を深める。事後学習として授業後にレポートを作成し提出する。また、授業資料や課題を整理し、知識の定着を図る。（各回授業の予習・復習時間は60分）
授業計画
1 子どもと家庭を取り巻く社会状況と子育て支援の必要性
2 子育て支援に関わる法制度と子ども・子育て支援制度の課題
3 子育て支援における保育士の専門性と保育所の特性をいかした支援
4 保護者との相互理解と信頼関係の形成
5 子育て支援における保育士の役割と視点
6 子育て支援における相談技術
7 子育て支援の計画と環境構成・実践・記録・評価・カンファレンス
8 職員間の連携と協働の実施体制
9 社会資源の活用と関係機関との連携・協力
10 保育所における子育て支援
11 児童養護施設・障害児施設等における子育て支援
12 地域の子育て家庭に対する支援
13 障害や特別な配慮を必要とする子ども及びその家庭に対する支援
14 子ども虐待の予防と対応
15 多様な支援ニーズを抱える子育て家庭の理解
定期試験　実施する

学生に対する評価
試験結果：50%、レポート課題：30%、授業への積極的参加：20%
テキスト
川村匡由・渡邊暁他、『福祉ライブラリ 相談援助』、建帛社、2018年、2916円
参考書・参考資料など
西村重稀・青井有貴（編著）、『子育て支援』、中央法規、2019年、2160円

授業科目名:子ども家庭支援の心理学	開講時期：1年・前期	授業区分：保育士必修
担当者名：准教授　橋本　翼	授業形態：講義	授業回数：15回
授業コード：242	単位数：2単位	オフィスアワー：火曜日5限目
ナンバリング：DH22202	該当DP：1-②、2-①	実務経験のある教員による科目

授業の到達目標及びテーマ

・生涯発達に関する心理学の基礎知識を習得し、乳幼児期の発達課題について理解する。
・家族や家庭の意義について理解し、親子関係や家族関係を発達の視点から包括的に理解する。
・家庭における現代の社会的状況と課題について理解する。
・子どもの精神保健についての基礎的な知識を習得する。

授業の概要

本授業では生涯発達に関する心理学的な基礎知識を学んだ後、乳幼児期における家族・家庭の役割について学ぶ。更に子育て家庭をめぐる現代的状況について学び、貧困、児童虐待等の課題に関して理解する。また子どもの精神保健に家庭が果たす役割に関して理解を深め、保育者として家庭を支援する際の基礎的な知識を習得する。

事前学習及び事後学習

児童虐待の問題や貧困の問題など、家庭を取り巻く様々な問題に関してニュースや本などを読み、「自分が保育者になったら子育て支援に関してどんなことができるか」を考えておくこと。（各回授業の予習・復習時間は60分）

授業計画

1 乳幼児期の子どもの発達

2 学童期の子どもの発達

3 青年期の発達

4 成人期、老年期の発達

5 親子関係と家族関係について

6 子育て経験を通じた親の成長

7 子育てを取り巻く社会的状況

8 ライフコースと仕事・出産・育児

9 多様な家庭の理解

10 特別な配慮を要する家庭の理解①（経済的問題、養育困難）

11 特別な配慮を要する家庭の理解②（特別なニーズのある子ども）

12 子どもの生活・生育環境に関して

13 児童虐待について

14 子どもの心理的問題

15 子育て支援に関わる専門機関の役割と保育者が行う子育て支援

定期試験　　実施する

学生に対する評価

各授業後の小レポート：20%、小テスト：20%、定期試験：60%

テキスト

テキストは特に指定しない。適宜資料を配布する。

参考書・参考資料など

橋本真紀・山縣文治（編）、『よくわかる家庭支援論　第2版』、ミネルヴァ書房、2015年、2592円

授業科目名:幼児と健康	開講時期：1年・前期	授業区分：卒業必修
担当者名：准教授　堀田　亮	授業形態：演習	授業回数：15回
授業コード：243	単位数：1単位	オフィスアワー：金曜日4限目
ナンバリング：DH13101	該当DP：1-②③、2-②	

授業の到達目標及びテーマ
・「現代の子ども」に対する運動あそびのもつ教育的意義について説明できる。 ・各種の運動あそびを素材とした短期の指導計画を作成し実践することができる。 ・運動あそびの「ねらい」を実現するために必要な効果的な指導技術を習得する。
授業の概要
グループワークを中心とした指導計画の作成を通して運動あそびに関する実践的指導力の向上を図る。また、乳児期や幼児期の運動あそびや健康に関する理論学習を通して就学前体育の実践課題についても検討する。
事前学習及び事後学習
・子どもたちに積極的に関わる、あるいは観察することを通して子どもの発達段階について理解を深める。 ・模擬保育後ならびに健康だより作成後にレポートを作成する。（各回授業の予習・復習時間は60分）
授業計画
1 前期オリエンテーション
2 乳児の運動発達と健康
3 幼児の運動発達と健康
4 現代社会における運動あそびと健康の意義
5 運動あそびの指導計画の作成-幼児体操-
6 グループワーク①（幼児体操についての情報収集-図書館-）
7 グループワーク②（幼児体操についての情報収集-インターネット-）
8 グループワーク①の発表会
9 グループワーク②の発表会
10 運動あそびの指導計画のテーマ検討
11 指導計画のテーマについての情報収集①
12 指導計画のテーマについての情報収集②
13 発表会①
14 発表会②
15 全体の振り返り
定期試験　実施する

学生に対する評価
① 毎授業後の感想文：20%、② 授業中に提示する課題レポート：40%、③ 定期試験：40%
テキスト
① 学校体育研究同志会（鐘ヶ江淳一他）、『幼児期運動遊びの進め方』、創文企画、2009年、1620円 ② 内閣府・文科省・厚労省、『平成29年告示　幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領＜原本＞』、チャイルド本社、2017年、540円
参考書・参考資料など
授業中にプリントを配布する。

授業科目名:幼児と言葉	開講時期：1年・後期	授業区分：卒業必修
担当者名：准教授　皆川　晶	授業形態：演習	授業回数：15回
授業コード：244	単位数：1単位	オフィスアワー：水曜日5限目
ナンバリング：DH23104	該当DP：2-②、3-②	

授業の到達目標及びテーマ
・話し言葉や書き言葉など言葉の意義と機能について説明できる。 ・子どもの発達を領域「言葉」を通してとらえ、子どもに対する理解を深める。 ・言葉の感覚を豊かにする言葉遊びや児童文化財（絵本・物語・紙芝居等）について、基礎的な知識を身につける。
授業の概要
領域「言葉」の指導の基盤となる子どもが豊かな言葉や表現を身につけ、想像する楽しさを広げるために必要な専門的事項に関する知識を学習する。子ども自らが児童文化財に親しむ体験ができるような環境を構成し、具体的展開のための技術を実践的に学ぶ。
事前学習及び事後学習
『幼稚園教育要領』『保育所保育指針』の領域「言葉」を読んでおくこと。発想の柔軟さや豊かな感性を養うためにも、日頃から絵本など児童文化財に親しむこと。（各回授業の予習・復習時間は60分）
授業計画
1 言葉の意義や機能
2 言葉の発達と理解
3 子どもの言葉と表現力
4 幼児における児童文化財の意義
5 絵本を生かした保育
6 読み聞かせの魅力
7 読み聞かせの実践
8 読み聞かせの実践と評価
9 絵本の紹介ポスターの制作
10 お話作り（グループワーク）
11 お話作りの発表（グループワーク）
12 言葉を楽しむ　①言葉遊び
13 言葉を楽しむ　②文字遊び
14 言葉を楽しむ　③身体表現
15 言葉の発達と表現力
定期試験　実施しない

学生に対する評価
レポート：40%、発表：30%、課題：30%
テキスト
内閣府・文科省・厚労省、『平成29年告示　幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領＜原本＞』、チャイルド本社、2017年、540円
参考書・参考資料など
岡田明（編）、『新保育内容シリーズ〈新訂〉子どもと言葉』、萌文書林、2018年、1728円

授業科目名：幼児と音楽表現	開講時期：1年・前期	授業区分：卒業必修
担当者名：教授　久世安俊・准教授　平松愛子	授業形態：演習	授業回数：15回
授業コード：245	単位数：1単位	オフィスアワー：授業終了後
ナンバリング：DH13105	該当DP：1-②③、2-②	

授業の到達目標及びテーマ
コミュニケーションツールである「声」についてのイメージを深め、発声法、表現法を習得する。保育現場・教育現場で必要な子どもの歌や弾き歌いのレパートリーを増やし、歌い示すことができる。基礎的な楽典を理解し記譜や読譜ができる。器楽（ピアノ伴奏・楽器演奏）の基礎的な演奏法を理解し習得する。器楽合奏におけるパート譜の作成ができる。
授業の概要
毎回、子どもの歌やコールユーブンゲンを歌いレパートリーを増やし音程の感覚も養う。弾き歌いの取り組みと歌唱に伴うピアノ伴奏も行い実践力を養う。楽典を解説し読譜練習や作品解釈を行う。グループによる器楽合奏や合唱、音楽劇の作成と発表を行い、音楽表現の向上と表現方法、また音楽表現活動の在り方についても検討する。
事前学習及び事後学習
・日頃から、子どもの歌や音に興味を持つ。 ・新曲は勿論のこと、知っている曲でも楽譜をみて歌い演奏することを心がける。 ・コールユーブンゲンについてはピアノを弾きながら歌うこと。　（各回授業の予習・復習時間は60分）
授業計画
1 発声のメカニズムと発声法について／ピアノ伴奏の役割について
2 〈生活の歌〉の歌唱と伴奏法／譜表と音名について
3 〈季節の歌〉の歌唱と伴奏法／音符と休符について
4 〈自然の歌〉の歌唱と伴奏法／拍子とリズムについて
5 〈生き物の歌〉の歌唱と伴奏法／音程について（幹音のみ）／コールユーブンゲン（2・3度）
6 〈集い・行事の歌〉の歌唱と伴奏法／長音階について／コールユーブンゲン（4度）
7　コールユーブンゲン（5・6・7度）／調号・標語について／弾き歌い個人練習
8　弾き歌い発表／楽典まとめ
9 音楽劇（1）企画・構成・選曲／器楽奏法（1）リズム打楽器
10 音楽劇（2）歌唱練習（部分練習）／器楽奏法（2）音盤打楽器
11 音楽劇（3）歌唱練習（通し練習）／器楽奏法（3）アコーディオン
12 音楽劇（4）発表・記録／器楽奏法（4）ハンドチャイム
13 音楽劇（5）鑑賞とディスカッション／器楽合奏（1）選曲・楽器構成・パート譜作成
14 合唱（1）パート練習／器楽合奏（2）練習
15 合唱（2）合わせ／器楽合奏（3）発表
定期試験　実施する

学生に対する評価
実技発表[歌唱・弾き歌い・合奏など]：40%、筆記試験：40%、提出課題：20%
テキスト
鈴木恵津子・冨田英也他（編）、『ポケットいっぱいのうた』、教育芸術社、2016年、2160円 平松愛子、『ピアノ教本』、近畿大学九州短期大学、2017年、500円
参考書・参考資料など
授業中に適宜資料を配布する。

授業科目名:幼児と造形表現	開講時期：1年・前期	授業区分：卒業必修
担当者名：准教授　竹永亜矢・非常勤講師　岡野千晴	授業形態：演習	授業回数：15回
授業コード：246	単位数：1単位	オフィスアワー：水曜日5限目
ナンバリング：DH23106	該当DP：1-②、2-②、3-②	

授業の到達目標及びテーマ
周囲の世界を全身の感覚器官を通して感じ、心身ともに成長していく幼児期において、共に感動し、表現する保育者も、子供を育てる大切な環境です。保育者が幼児一人一人の自己表現を受容し、理解できる援助者である事は、幼児の豊かな感性を養うために重要となります。本講義では、学生諸君が様々な素材や表現方法を通して自己を表現する楽しさを知り、表現者として主体的に取り組む事で、幼児の造形表現への理解を深め、豊かな創造性を育み、必要な援助と成長を見守れる保育者の育成と、実践的造形教育指導の習得を目指します。
授業の概要
実技課題として身近な素材を使った楽しい美術表現技法の体験から基礎技法を習得し、より実践的な幼児期の発達に適した作品課題や、安全な教材作り、身近な素材を使った「服飾造形」創作、表現に取り組み、創作活動から自己表現へ展開する大切さを学びます。また、作品集作り、レポート、課題ごとの資料配布と、定期試験を行う事で理論から実践まで保育における造形表現活動について教授します。
事前学習及び事後学習
・各回で取り組む技法の表現技法について調べ、素材と特徴と技法のポイントを学習する ・授業で取り組んだ課題を反復学習し、技法のプロセスとポイントを記録する。（各回授業の予習・復習時間は60分）
授業計画
1 オリエンテーション・「造形表現と子どもの発達」(授業と教材)
2 美術表現技法1「身近な素材を使って制作：教材①絵具」
3 美術表現技法2「身近な素材を使って制作：教材②絵具」
4 美術表現技法3「身近な素材を使って制作：教材③クレパス・クレヨン」
5 美術表現技法4「身近な素材を使って制作：教材④クレパス・クレヨン」
6 美術表現技法の応用1「素材と技法の活用1」
7 美術表現技法の応用2「素材と技法の活用2」
8 美術表現技法の応用3「創作への展開1」
9 美術表現技法の応用4「創作への展開2」
10 美術表現技法の応用5「オリジナル作品制作」
11 教材研究1「新聞紙を使った服飾造形1. 制作」
12 教材研究2「新聞紙を使った服飾造形2. 発表」
13 教材研究3 「身近な素材から安全な教材への展開」
14 制作課題のまとめと振り返り
15 作品集作り
定期試験　実施する

学生に対する評価
講義ごとの課題・提出物：80%、定期試験：20%
テキスト
・近畿大学九州短期大学通信部、『図画工作』、近畿大学九州短期大学、2019年、500円 ・適宜参考資料を配布する
参考書・参考資料など
・内閣府・文科省・厚労省、『平成29年告示　幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領＜原本＞』、チャイルド本社、2017年、540円 ・竹永亜矢・塙和道・岡野千晴、『近畿大学九州短期大学　研究紀要第48号』（p38-53・p136-143・p144-155）、近畿大学九州短期大学、2018年 ・竹永亜矢・塙和道・岡野千晴・川里智子、『近畿大学九州短期大学　研究紀要第47号』（p64-84・p167-177・p178-190・p191-204）、近畿大学九州短期大学、2017年 ・H･ガードナー、『 こどもの描画－なぐり描きから芸術まで－』、誠信書房、1996年、4536円 ・鳥居昭美、『こどもの絵をダメにしていませんか？』、大月書店、2004年、1620円 ・富山典子、『絵画遊び技法百科』、ひかりのくに、2001年、3024円 ・林建造、『保育の中の造形表現』、サクラクレパス出版、1992年、3456円

授業科目名:絵画の発達	開講時期：1年・後期	授業区分：保育士選択
担当者名：准教授　竹永亜矢	授業形態：講義	授業回数：15回
授業コード：247	単位数：2単位	オフィスアワー：水曜日5限目
ナンバリング：DH22703	該当DP：1-③、2-③、3-④	

授業の到達目標及びテーマ
保育援助の本質として、誕生から6歳までの子どもの表象画縦断的記録作品から、子どもの描画発達と表現の特徴について学び、それぞれの発達段階に適した援助のありかたへの理解を深める。 描画表現を楽しむ子どもの主観、環境、家庭を作品から読み解く感性と知識、保育者として適切な援助と指導方法を習得する。
授業の概要
誕生から6歳までに描画された表象画縦断的記録作品の発達段階に準じて描画の発達と特徴について解説する。講義と作品鑑賞、各テーマごとの授業課題に取り組む。描画を通した保育支援と子どもや保護者とのコミュニケーション、保育士の関わりについて、講義、制作体験、感想文、レポート、参考資料の配布により教授する。
事前学習及び事後学習
・各回テーマの発達段階について予習しておく。 ・日頃より子どもの描画作品に興味関心を持ち、印象に残る作品や行動について記録する ・授業で解説した内容、気付きとポイントを記録する。（各回授業の予習・復習時間は60分）
授業計画
1 オリエンテーション・授業計画　子どもの描画発達「表象画」について
2 「幼児表象画」美術表現と5領域（子どものあそびと描画）
3 「幼児表象画」①スクリブル　（前期　初めての描画）
4 「幼児表象画」②スクリブル　（後期）
5 「幼児表象画」スクリブルによる描画体験
6 「幼児表象画」③ダイアグラム単体図（スクリブルからの移行）
7 「幼児表象画」④ダイアグラム単体図
8 「幼児表象画」⑤コンバイン結合図
9 「幼児表象画」⑥アグリゲイト集合図　（前期）
10 「幼児表象画」⑦アグリゲイト集合図　（後期）
11 「幼児表象画」⑧ピクチャーステージ絵画期
12 「幼児表象画」子どもの絵は生活の鏡（絵に表れる子どもの心）
13 「幼児表象画」幼児教育現場で描画された縦断的作品（年少・年中・年長　描画表現の特徴）
14 「幼児表象画」表象画から学ぶ「室内画」を描く
15 「幼児表象画」　まとめとテスト
定期試験　実施する

学生に対する評価
授業課題：40%、レポート：30%、テスト：30%
テキスト
参考資料適宜配布
参考書・参考資料など
・竹永亜矢・塙和道、『近畿大学九州短期大学　研究紀要第47号』「美術表現研究　講義幼児表象画　縦断的記録の検証」（p64-84）、近畿大学九州短期大学、2017年 ・竹永亜矢・塙和道、『近畿大学九州短期大学　研究紀要第48号』「美術表現研究　講義幼児表象画　描画の発達と特徴」（p38-53）、近畿大学九州短期大学、2018年 ・ローダ・ケロッグ、『児童画の発達過程－なぐり描きからピクチュアへ－』、誠信書房、1998年 ・鳥居昭美、『こどもの絵をダメにしていませんか？』、大月書店、2004年、1620円 ・宮武辰夫、『幼児の絵は生活している』、博文社、1985年、2700円

授業科目名:現代社会と教育	開講時期：2年・後期	授業区分：保育士選択
担当者名：准教授　垂見直樹	授業形態：講義	授業回数：15回
授業コード：248	単位数：2単位	オフィスアワー：月曜日5限目
ナンバリング：DH22702	該当DP：1-①、2-③	

授業の到達目標及びテーマ
①教育・保育をめぐる現代的な課題について知り、社会問題について考える視点を身につける。 ②自分の学校生活を振り返り、社会の問題を自分や自分の身近な問題としてとらえる視点を持つ。
授業の概要
教育や保育に関する現代的なテーマに関する知識を知る。そのテーマが、自分とどのようにつながっているかを検討する。それらの過程で、これから出会う子どもたちの姿を理解する社会的な視点を育むことを目的とする。
事前学習及び事後学習
新聞記事やネット上のニュースなどで、関心のあるテーマの記事を収集する（授業中に発表する）。講義の内容について復習する。その際、独自の文献や情報源に当たることが望ましい。（各回授業の予習・復習時間は60分）
授業計画
1 現代社会と教育で学ぶこと
2 戦後日本の学校教育の変遷①―戦後日本のあゆみ
3 戦後日本の学校教育の変遷②―学校問題を中心に
4 不登校特例校について
5 夜間中学について
6 外国人児童生徒教育について
7 貧困と教育－学力とは、学力格差について
8 保育の現代的役割
9 早期教育について
10 家庭の役割について
11 都市と地方の格差について
12 学校教育における「性」について
13 幼児教育の無償化について
14 高等教育の無償化について
15 講義のまとめと討議―グループワークを通して
定期試験　実施しない

学生に対する評価
レポート課題等：50%、学期末レポート：50%
テキスト
指定しない
参考書・参考資料など
内閣府・文科省・厚労省、『平成29年告示　幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領＜原本＞』、チャイルド本社、2017年、540円

授業科目名:子どもの音楽	開講時期：2年・後期	授業区分：幼免・保育士選択
担当者名：准教授　平松愛子	授業形態：演習	授業回数：15回
授業コード：249	単位数：1単位	オフィスアワー：授業終了後
ナンバリング：DH32907	該当DP：1-②③	

授業の到達目標及びテーマ
子どもの発達の面から様々な素材を用いた音楽あそび、歌う活動、保育現場で使われる楽器の演奏法、音楽教育法について考え、発達に応じた音楽活動とその指導に関する知識の獲得及び技能の習得を目指す。器楽（ピアノ伴奏、楽器演奏）の基礎的な奏法を理解し、アレンジ及び演奏が出来るようになる。
授業の概要
子どもの音楽あそび、子どもの歌う活動等の音楽活動に必要なピアノ伴奏法の知識・技術を習得する。自身のピアノ技術に応じた伴奏にアレンジ、演奏をおこなう。保育現場で使われる楽器（リズム打楽器、音板打楽器、ミュージックベル等）の基礎的な奏法を学び、子どもの歌の器楽合奏アレンジ、合奏をおこなう。様々な音楽教育法について理解し、発達に応じた音楽活動とその指導に関する知識の獲得及び技能の習得を目指す。
事前学習及び事後学習
配布資料に目を通しておくこと。作品アレンジ、発表練習をおこなう。（各回授業の予習・復習時間は60分）
授業計画
1 オリエンテーション、ピアノ伴奏法（1）伴奏の役割、簡易伴奏について
2 ピアノ伴奏法（2）こどもの歌の伴奏1（生活の歌・生きものの歌）
3 ピアノ伴奏法（3）季節の歌の伴奏2（季節のうた）
4 ピアノ伴奏法（4）合唱におけるピアノ伴奏
5 ピアノ伴奏法（5）簡易伴奏譜についての情報収集
6 ピアノ伴奏法（6）伴奏の発表
7 器楽奏法（1）リズム打楽器・音盤打楽器演奏法
8 器楽奏法（2）アコーディオン・ミュージックベル演奏法
9 器楽合奏（1）合奏譜の読み方・情報収集
10 器楽合奏（2）合奏の練習1
11 器楽合奏（3）合奏の練習2
12 器楽合奏（4）合奏の発表
13 音楽あそび（楽器を使った音楽あそび・クレヨンを使った音楽あそび）
14 音楽あそび（紙芝居と音作り）
15 様々な音楽教育法
定期試験　実施しない

学生に対する評価
子どもの歌のピアノ伴奏：20%、楽器の演奏技術：20%、合奏の発表内容：20%、その他の課題提出・発表：40%
テキスト
平松愛子、『ピアノ教本』、近畿大学九州短期大学、2017年、500円 鈴木恵津子・冨田英也他（編）、『ポケットいっぱいのうた』、教育芸術社、2016年、2160円
参考書・参考資料など
プリント配布

授業科目名:造形とあそび	開講時期：2年・後期	授業区分：保育士選択
担当者名：准教授　竹永亜矢	授業形態：演習	授業回数：15回
授業コード：250	単位数：1単位	オフィスアワー：水曜日5限目
ナンバリング：DH32908	該当DP：1-②、2-③、3-②	

授業の到達目標及びテーマ
身近な素材を使った造形体験（立体、平面、色）作品から視聴覚あそびへの展開。 保育現場で実践できる造形あそびと豊かな感性、集団コミュニケーション表現する力を養い、創造性豊かに保育現場で展開できる能力を身に付ける。
授業の概要
視聴覚あそび（創作・鑑賞）の展開、アニメ（立体・平面）映像機器を使った創作活動によりオリジナルの作品が制作できる技術の習得。身近な素材を使った作品制作と活用、地域の伝統文化や行事のなかで継承される造形から、イベントやお祭り体験への展開。全ての領域を含む集団コミュニケーション表現（形、色、音、動作）〈美術・音楽・身体表現〉は共同で演じる、劇あそび、ごっこ遊び、演じる、なりきる事でイメージを伝え合う、などあそびを通して他者と関わり、表現を体験する。
事前学習及び事後学習
・各回テーマについて、アイデアを考え、記録しておく。日常生活の中で起きた出来事、驚き、感動、面白い事、物を記録しておく。 ・表現した事、完成した作品の記録と保管。アイデアから完成まで、プロセスの記録。（各回授業の予習・復習時間は60分）
授業計画
1 オリエンテーション・授業計画　「造形とあそび」について
2 立体あそび①　（粘土の表現・さわる）
3 立体あそび②　（アイデアと構想・視聴覚あそび）
4 立体あそび③　（制作と表現　あそびでの活用）
5 平面あそび①　（素材の活かし方・見る）
6 平面あそび②　（アイデアと構想・・視聴覚あそび）
7 平面あそび③　（制作と表現　あそびでの活用）
8 立体と平面①　（身近な素材・教材の活用）
9 立体と平面②　（アイデアと構想）
10 立体と平面③　（制作と表現、あそびへの活用）
11 創作から活用へ①　（共同制作によるイベントでの活用の構想）
12 創作から活用へ②　（共同制作）
13 創作から活用へ③　（作品による表現）
14 創作から活用へ④　（表現活動への展開）
15 「造形とあそび」まとめとテスト
定期試験　実施する

学生に対する評価
授業課題（作品と発表）：60%、レポート：20%、テスト：20%
テキスト
適宜資料配布
参考書・参考資料など
・林建造、『保育の中の造形表現』、サクラクレパス出版、1992年、3456円 ・宮武辰夫、『幼児の絵は生活している』、博文社、1985年、2700円□ ・京都造形芸術大学、『映像表現の創造特性と可能性』、角川書店、2000年、7344円 ・京都造形芸術大学（編）、『立体造形を学ぶ 「彫刻からの展開」発見・素材・技法・空間』、角川書店、1998年、4104円

授業科目名: 教職概論	開講時期：1年・前期	授業区分：幼免必修
担当者名：教授　三木一司	授業形態：講義	授業回数：15回
授業コード：251	単位数：2単位	オフィスアワー：火曜日5限目
ナンバリング：DH13301	該当DP：2-①、3-①	

授業の到達目標及びテーマ
今日求められている幼稚園の役割や使命及び教職の社会的意義を理解する。そして、幼稚園教諭として求められる役割や資質力量について理解し、教師の職務内容や服務などに関する基礎的な事項を理解する。また、組織として学校内外との連携や諸課題への対応への重要性を理解する。
授業の概要
教職の意義や教師の役割などの基本的事項の理解の上に、教師にとって必要不可欠な資質力量や職務内容のあり方への考察を深める。
事前学習及び事後学習
子ども、先生、保育をめぐる諸問題について関心を持つ。 配布資料や参考文献などから講義内容の要点を押さえ、理解する。（各回授業の予習・復習時間は60分）
授業計画
1 学校教育を振り返るー教師との出会いー
2 教師という仕事の誕生
3 教師という仕事の社会的役割と特徴
4 教職観の変遷
5 実践から見える教師の力とは
6 教師として形成すべき資質と力量
7 先生とこどもの関係を考えるー子ども集団と学級ー
8 学びについて考えるー授業をつくり・実践していくー
9 子どもに対する懲戒の実態
10 子どもへの懲戒を考える
11 教師の身分と服務
12 教師としての成長ー研修を通してー
13 チーム学校運営としての課題対応
14 地域とともに歩む幼稚園として
15 これからの教師に求められるもの
定期試験　実施しない

学生に対する評価
レポート試験：70%、授業中に指示した課題：30%
テキスト
特に指定しない。
参考書・参考資料など
内閣府・文科省・厚労省、『平成29年告示　幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領＜原本＞』、チャイルド本社、2017年、540円 授業中に適宜資料を配付し、参考図書を紹介する。

授業科目名:教育原理	開講時期：1年・後期	授業区分：卒業必修
担当者名：教授　金　俊華	授業形態：講義	授業回数：15回
授業コード：252	単位数：2単位	オフィスアワー：月曜日5限目
ナンバリング：DH23302	該当DP：1-①②③、2-①	

授業の到達目標及びテーマ
教育の基本的概念や諸理念を理解し、教育の歴史や思想に関する基礎的知識を習得する。また、教育及び学校の営みの変遷を理解する。併せて、現代の学校教育に関する社会的、制度的事項について基礎的な知識を身に付け、学校と地域の連携及び学校安全への対応について理解する。
授業の概要
教育の基本的概念や諸理念について学び、教育の歴史及び様々な思想を実際の教育及び学校、子ども家庭福祉等との関わりの視点で理解する。また、生涯学習社会の状況と学校教育の関係を理解し、教育政策の動向を把握する。さらに、現代の公教育の制度の意義・原理・構造についてその法的・制度的仕組みと課題を理解する。併せて、学校と地域との連携・協働及び学校安全と危機管理について理解を深める。
事前学習及び事後学習
幼稚園教育要領や教育法規についての解説を熟読しておく。授業中、提示される課題をまとめる。（各回授業の予習・復習時間は60分）
授業計画
1 教育学の諸概念及び教育の目的・目標
2 教育の構成要素（子ども・教師・家庭・学校）とその相互関係
3 家族と社会による教育の歴史
4 近代国民国家の成立と教育制度：西欧と日本の歴史的経緯
5 現代社会における教育課題：変容する「家族」・「学校」と子どもの生活
6 家庭や子どもに関する教育思想
7 学校や学習に関する教育思想
8 教育思想のみられる幼児教育：ペスタロッチ、フレーベル、オウエン、倉橋など
9 近年の教育政策の動向：「教育改革」の現状と課題
10 公教育の原理及び理念
11 公教育制度と教育関係法規
12 教育制度と教育行政の理念と仕組み
13 地域との連携・協働と学校教育活動
14 開かれた学校づくりの意義と課題
15 学校安全と危機管理
定期試験　実施する

学生に対する評価
レポート：40%、試験：60%
テキスト
特に指定しない。授業中、資料を配布する。
参考書・参考資料など
内閣府・文科省・厚労省、『平成29年告示　幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領＜原本＞』、チャイルド本社、2017年、540円

授業科目名:教育心理学	開講時期：1年・前期	授業区分：幼免・保育士必修
担当者名：准教授　木下寛子	授業形態：演習	授業回数：15回
授業コード：253	単位数：1単位	オフィスアワー：水曜日3限目
ナンバリング：DH13303	該当DP：1-③	

授業の到達目標及びテーマ
【テーマ】学び育つ子どもとその環境の理解 【到達目標】子ども達の最も近くに居る者の一人として，子どもが学び育つということの意味を学び、子どもへの関わり手としての基礎的な態度を養うことが主題である。そのために①発達論、学習論の基礎的知識を修得し、②幼児期にある子どもの生活を、理論的に捉えて支え、学びと探求を十全に展開させるための基本的な態度の基礎、および個々の子どもを実際に理解し、どのように保育者として関わる必要があるかを具体的に考える足がかりを形成することを到達目標とする。
授業の概要
本講義は，特に幼児期を中心に、生涯にわたる変化の理解に向けて、子どもの発達（育ち）と学習（学び）の過程を学ぶことを目的とする。これらの事象は個に閉じた事象ではなく，取り巻く環境に支えられていることも見逃せない。本講義では，多様な子どもたちが多様な環境の中で何をいかに学び・育ち，またいかにそれらの場で「躓き」の体験をするのか，またその場に居合わせる大人としてできることは何か，多様な例を通じて考え進めていく。
事前学習及び事後学習
【予習】事前に一覧にして配布する教育心理学の術語とシラバスを対照させ、授業の見通しを持っておくこと。【復習】術語の定義、他の術語との関連性、具体的な事象との関連づけをしたまとめを作る。（各回授業の予習・復習時間は60分）
授業計画
1 「学びの場の中の子ども」
2 発達（1）発達に関する基礎概念
3 発達（2）発達論①：運動・認知発達について
4 発達（3）発達論②：ことばと社会性の発達
5 学びと遊びと環境
6 学習の基礎（1）記憶
7 学習の基礎（2）知識と問題解決
8 学習の基礎（3）学習理論
9 主体的学習を支えるものと発達
10 学びや探求を支えるもの（1）動機づけ
11 学びや探求を支えるもの（2）集団づくり
12 学びや探求を支えるもの（3）学習評価の在り方
13 学習指導・発達支援の基礎（1）学び育つ者と教え育む者の関係論
14 学習指導・発達支援の基礎（2）学びや育ちの多様性
15 学習指導・発達支援の基礎（3）教育と支援
定期試験　実施する

学生に対する評価
レポート：15%、テスト：85%　（レポートは毎授業後に提出を求めるレポートを意味する。 テストは教育心理学の術語の理解（60%）授業内容の有機的な理解（40%）を確認する。）
テキスト
鎌原雅彦・竹綱誠一郎（編）、『やさしい教育心理学 第4版』、有斐閣、2015年、2052円 内閣府・文科省・厚労省、『平成29年告示　幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領＜原本＞』、チャイルド本社、2017年、540円
参考書・参考資料など
鎌原雅彦・竹綱誠一郎（編）、『やさしい教育心理学 第4版』、有斐閣、2015年、2052円 鹿毛雅治（編）、『教育心理学の新しいかたち』、誠信書房、2005年、3456円 無藤隆・麻生武（編）、『育ちと学びの生成（質的心理学講座)』、東京大学出版会、2008年、3780円 石隈利紀（編）、『学校心理学ー教師・スクールカウンセラー・保護者のチームによる心理教育的援助サービスー』、誠信書房、 1999年、4104円

授業科目名: 教育相談	開講時期：2年・後期	授業区分：幼免必修
担当者名：准教授　橋本　翼	授業形態：講義	授業回数：15回
授業コード：254	単位数：2単位	オフィスアワー：火曜日5限目
ナンバリング：DH33402	該当DP：2-①、3-②	実務経験のある教員による科目

授業の到達目標及びテーマ

・幼児理解と発達との関連性および個と集団との関連について理解する。
・教育相談の目的と方法について説明できる。
・カウンセリングの理論および基礎的な技法について説明できる。
・幼児の心理的問題の理解と対応の基礎について理解する。
・保護者支援の方法について理解する。
・教育相談の組織的整備や他職種との連携について説明できる。

授業の概要

まず幼児理解の視点を生かした教育相談の方法に関して学ぶ。幼児の発する様々な不適応、問題行動への心理学的な理解を深め、対応に関する基礎的な方法を習得する。カウンセリングのさまざまの方法（受容、傾聴、共感的理解等）について体験的に学び、幼児教育の現場において幼児、保護者の教育相談を行うための技術を習得する。園内連携や他機関との連携に関しても学んでいく。

事前学習及び事後学習

幼児をとりまくさまざまな発達的、環境的問題や、保護者の育児不安やサ保育者の行う子育て支援についてニュースやインターネットの記事、本などを読んで、「自分ならどのように関わるか」考えておくこと。（各回授業の予習・復習時間は60分）

授業計画

1 幼児理解の基礎

2 幼児理解に関する心理学理論

3 幼児理解に必要な教師の態度（グループワーク）

4 観察を中心とした幼児理解の方法論

5 集団の中で育つ幼児の心

6 幼児期における諸問題の理解と心理的支援（不登園、神経症的習癖、親子関係等）

7 幼児期における保護者の心理の理解 ： ロールプレイ①

8 教育相談の必要性と幼児教育における今日的課題

9 臨床心理学の基礎理論

10 幼児期における問題行動：早期発見と早期対応

11 カウンセリングとカウンセリングマインド（クライエント中心療法の考えから）

12 カウンセリングの技法（傾聴訓練、応答訓練）：ロールプレイ②

13 教育相談の実際(事例をもとに考える）：ロールプレイ③

14 養育困難を抱える家庭への支援について：ロールプレイ④

15 教育相談を進めるための組織的な整備と他職種との連携について

定期試験　　実施しない

学生に対する評価

各授業の最後に提出する小レポート：20%、ロールプレイ後に提出するレポート課題：30%、最終レポート：50%

テキスト

内閣府・文科省・厚労省、『平成29年告示　幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領＜原本＞』、チャイルド本社、2017年、540円

参考書・参考資料など

石川洋子（編著）、『子育て支援カウンセリング―幼稚園・保育所で行う保護者の心のサポート』、図書文化、2008年、1600円

授業科目名: 教職実践演習	開講時期：2年・後期	授業区分：幼免必修
担当者名：教授　金 俊華・教授　三木一司	授業形態：演習	授業回数：15回
授業コード：255	単位数：2単位	オフィスアワー：月曜日5限目
ナンバリング：DH33503	該当DP：1-①②③、2-①②③、3-①②③④	

授業の到達目標及びテーマ
・学生が自らの学びをふり返り幼稚園教諭として必要な知識・技術の習得を確認する。 ・学生が幼稚園教諭として必要なコミュニケーション能力を習得する。 ・学生が幼稚園教諭としての使命感と教育的愛情について理解する。
授業の概要
この授業では、2年間の学修と実習の成果をふり返りながら、幼稚園教諭に求められる資質と能力の習得を確認する。従って、学生自身が必要に応じて自己の資質と能力の向上に努めることができるよう、発表・議論・ロールプレイ・模擬保育を組み合わせて授業を行う。
事前学習及び事後学習
自らの学びをふり返り幼稚園教諭として必要な知識・技能の中で、自己に欠けている課題を把握する。 教育職に必要なコミュニケーション能力の向上に積極的に取り組む。 授業中、要求された課題をまとめる。（各回授業の予習・復習時間は60分）
授業計画
1 オリエンテーション
2 教育職に就く心構えと準備（教育的愛情）
3 幼稚園教諭としての使命と役割
4 教育職の意義と職務内容
5 教育職に必要なコミュニケーション能力
6 ロールプレイ（保護者への対応）①
7 ロールプレイ（保護者への対応）②
8 ロールプレイ（保護者への対応）③
9 グループ討議・反省会①
10 グループ討議・反省会②
11 安全管理・危機管理について
12 教育内容に関する課題討議
13 教育内容に関する課題発表
14 教育職の専門性向上に関する課題検討
15 教育職の専門性向上に関する課題発表
定期試験　実施する

学生に対する評価
定期試験：40%、発表：40%、レポート20%
テキスト
適宜参考文献を提示し、資料を配付する。
参考書・参考資料など
内閣府・文科省・厚労省、『平成29年告示　幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領＜原本＞』、チャイルド本社、2017年、540円

授業科目名:教育実習	開講時期：1年後期・2年前期	授業区分：幼免必修
担当者名：准教授　垂見直樹	授業形態：実習	授業回数：附属実習30回、外部実習2週間
授業コード：256	単位数：4単位	オフィスアワー：月曜日5限目
ナンバリング：DH33502	該当DP：2-②③、3-①②	

授業の到達目標及びテーマ

①幼児に対して適切な観察を行うとともに、学校実務に対する補助的な役割を担い、教育実習園の幼児の実態と、園の経営及び教育活動の特色を理解する。
②短大で学んだ領域や教職に関する専門的な知識・理論・技術等を、保育で実践するための基礎を身に付ける。

授業の概要

それまでの教育課程で習得した幼児教育に関する知識や技術を実践することで、自身の課題や強み・特長を見出す。また、実習を通して得た自身の課題に、その後の短大生活においてどのように取り組むかの見通しをもつ。

事前学習及び事後学習

・配属クラスの年齢の発達過程について知る。また、年齢や発達過程におうじた手遊び、歌遊びや読み聞かせに適した絵本の選定などの準備を行う。実習指導担当教諭の指導に従って自身の実習を振り返り、改善のための方法を検討する。（各回授業の予習・復習時間は60分）

授業計画

【附属幼稚園実習】
　1年次後期から2年次前期までの授業開講時期に週1度の附属幼稚園実習をカリキュラム化している。園児の送り迎え～通常の教育活動を経験する。また、年間を通して関わることを通して、地域行事や季節行事等への運営への参画を通じて、幼稚園の年間スケジュールを体験する。
　実習期間中の幼児・教師とのかかわりを通して、適切に記録する技術を実践する機会となる。また、幼児とその周辺の環境を観察することで、教育実習園の特色を理解する。

【外部幼稚園実習】
　外部幼稚園実習においては、附属幼稚園との対比を通して幼稚園における教育内容の多様性の一端に触れる。
　具体的には、部分実習・全日実習の実施や、日常的な園生活における教師と幼児との関わりを通して、それまでの学修内容を実践し、学習現場の教師からフィードバックを受ける。その過程で自身の課題や特長を実感することが必要である。

定期試験　実施しない

学生に対する評価

・幼稚園による評価：80%、実習日誌・指導計画（部分実習・全日実習）の内容に対する評価：20%

テキスト

内閣府・文科省・厚労省、『平成29年告示　幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領＜原本＞』、チャイルド本社、2017年、540円

参考書・参考資料など

授業科目名:教育実習事前事後指導	開講時期：1年後期・2年前期	授業区分：幼免必修
担当者名：准教授　垂見直樹	授業形態：演習	授業回数：15回
授業コード：257	単位数：1単位	オフィスアワー：月曜日5限目
ナンバリング：DH23501	該当DP：1-②、3-①	

授業の到達目標及びテーマ
教育実習生として幼稚園の教育活動に参画する意識を高め、事後指導では教育実習を経て得られた成果と課題等を省察するとともに、教員免許取得までに習得すべき知識や技能等について理解する。これらを通して、教育実習の意義を理解する。
授業の概要
（事前）教育実習生として遵守すべき義務等について理解するとともに、その責任を自覚したうえで意欲的に教育実習に参加する準備をする。（事後）教育実習をふりかえり，教員免許取得までにさらに習得することが必要な知識や技能等を理解する。また、実習日誌の書き方や指導計画立案の基礎を確認し、実習の成果を豊かにするための準備をする。
事前学習及び事後学習
つぎの実習に向けた自分の目標を明確にする。講義内容を復習するとともに、実習日誌の書き方や指導計画の立案に活かす。（各回授業の予習・復習時間は60分）
授業計画
1 幼稚園実習の全体像と本学の教員養成の目標について
2 附属幼稚園実習に向けて－幼稚園教諭の責任・倫理・義務について
3 附属幼稚園実習に向けて－各年齢の発達過程について・幼稚園教育の現代的課題について
4 幼稚園教諭の職務と仕事について
5 実習園選定に向けた情報収集と選定の視点について
6 観察・参加実習における記録作成の方法
7 実習日誌の意義と記録方法の基礎
8 実習日誌記録の実践
9 指導計画の役割と立案の基礎
10 指導計画立案の実践
11 実習中教師ををみる視点―附属幼稚園実習の振り返りとグループ討議
12 実習中子どもをみる視点―附属幼稚園実習の振り返りとグループ討議
13 環境構成の基礎知識
14 外部幼稚園実習の心構えと目標の設定
15 実習を通しての自身の課題の把握と今後の短大生活目標の設定
定期試験　実施しない

学生に対する評価
課題レポート等：50%、学期末レポート：50%
テキスト
文部科学省、『幼稚園教育要領解説』、フレーベル館、2018年、240円
参考書・参考資料など

授業科目名:健康（指導法）	開講時期：2年・前期	授業区分：卒業必修
担当者名：准教授　堀田　亮	授業形態：講義	授業回数：15回
授業コード：258	単位数：1単位	オフィスアワー：金曜日4限目
ナンバリング：DH23201	該当DP：1-②③	

授業の到達目標及びテーマ
・幼稚園教育要領および保育所保育指針に示される「ねらい」「内容」などの「健康」領域の構造を理解する。 ・「健康」に関する保育内容（①就学前段階の運動あそびの指導法、②基本的生活習慣の形成およびその援助、③健康、安全に関する保育活動）および指導法を実践的に探求していくために必要な基礎的な知識、技能を獲得する
授業の概要
幼稚園教育要領や保育所保育指針における「健康」領域の中核的な保育内容となる「運動あそび」と「基本的生活習慣」に関する保育者の指導・援助のあり方をテーマとして検討していく。心理学、教育学、保育学、医学の諸領域による知見を理解することにくわえ、新聞やインターネットなどの情報から現代的な課題を探求する。
事前学習及び事後学習
・各回の授業内容に該当する「教育要領」「保育指針・解説書」などの部分をあらかじめ読んでおくこと ・子ども、幼児、健康、子育て、からだ、スポーツ、運動などをキーワードとした新聞やインターネットの情報について、日常から興味・関心を持つようにすること（各回授業の予習・復習時間は60分）
授業計画
1 幼稚園教育要領および保育所保育指針における「健康」領域の概要
2 幼稚園教育要領および保育所保育指針における「健康」領域の詳細と指導法
3 幼稚園教育・保育所保育における評価法ー「運動あそび」を中心にー
4 幼児期の健康とその後
5 幼児の運動あそびと発達を踏まえた教材研究
6 情報機器を活用した「健康」指導法
7 運動あそびの指導計画の作成
8 模擬保育
9 模擬保育の振り返り
10 健康だよりの作成に向けた情報取集と制作
11 食事に関する保育内容と指導法
12 排泄に関する保育内容と指導法
13 生活リズム（睡眠・休養）に関する保育内容と指導法
14 事故防止と安全対策
15 全体を通した振り返り
定期試験　実施する

学生に対する評価
① 毎授業後の感想文：20%、② 授業中に提示する課題レポート：40%、③ 定期試験：40%
テキスト
①内閣府・文科省・厚労省、『平成29年告示　幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領＜原本＞』、チャイルド本社、2017年、540円 ②厚生労働省、『保育所保育指針解説書（平成30年）』、フレーベル社、2018年、346円
参考書・参考資料など
授業中にプリントを配布する。

授業科目名:人間関係（指導法）	開講時期：2年・前期	授業区分：卒業必修
担当者名：教授　金　俊華	授業形態：演習	授業回数：15回
授業コード：259	単位数：1単位	オフィスアワー：月曜日5限目
ナンバリング：DH23202	該当DP：1-②③、2-②	

授業の到達目標及びテーマ
幼稚園教育ならびに保育所保育において育みたい資質・能力について理解する。また、領域「人間関係」のねらい及び内容について背景となる専門領域と関連させて理解を深める。さらに、幼児の発達に即して、主体的・対話的で深い学びが実現する過程を踏まえて具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身につける。
授業の概要
幼稚園教育要領及び保育所保育指針に示された幼稚園教育の基本を踏まえ、領域「人間関係」のねらい及び内容を理解する。また、幼児の発達や学びの過程を理解し、具体的な指導場面を想定した保育を構想する方法を身につける。
事前学習及び事後学習
幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領を事前に熟読しておく。授業中提示された課題をまとめて提出すること。（各回授業の予習・復習時間は60分）
授業計画
1 幼稚園教育要領及び保育所保育指針における幼稚園教育の基本
2 領域「人間関係」のねらいと内容並びに構造
3 領域「人間関係」内容（1～4）と指導上の留意点
4 領域「人間関係」内容（5～8）と指導上の留意点
5 領域「人間関係」内容（9～13）と指導上の留意点
6 幼稚園教育ならびに保育所保育における「幼児理解と評価」
7 園生活の経験と小学校以後の生活や教科の関連
8 幼児の認識・思考、行動を踏まえた教材研究（遊びの構想）
9 模擬保育のための教材研究
10 模擬保育のための指導案作成
11 附属幼稚園における「模擬保育」の実施
12 附属幼稚園における「模擬保育」の振り返り
13 「自立心」、「協働性」を育てるための保育実践（情報機器の活用）
14 「道徳性・規範意識の芽生え」を育てるための保育実践（情報機器の活用）
15 家庭、地域社会の人々との連携について
定期試験　実施する

学生に対する評価
レポート：20%、「模擬保育」：20%、定期試験：60%
テキスト
特に指定しない。授業中、資料を配布する。
参考書・参考資料など
内閣府・文科省・厚労省、『平成29年告示　幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領＜原本＞』、チャイルド本社、2017年、540円

授業科目名:環境（指導法）	開講時期：2年・前期	授業区分：卒業必修
担当者名：准教授　髙木義栄	授業形態：講義	授業回数：15回
授業コード：260	単位数：1単位	オフィスアワー：火曜日5限目
ナンバリング：DH23203	該当DP：1-②③、3-④	

授業の到達目標及びテーマ
幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領における領域「環境」のねらいを踏まえ、様々な環境に関わる活動（生活や遊び）の内容及び指導に関する知識・技術・ICT機器の活用法を習得する。子どもの発達における環境の重要性と幼児教育における評価、小学校の科目とのつながりについて理解する。
授業の概要
子どもの発達における環境の重要性や幼児教育における評価、小学校の科目とのつながりについて理解し、幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領における領域「環境」のねらいについて学習する。様々な環境に関わる活動（生活や遊び）の内容と指導（ICT機器の活用を含む）について実践例とともに学ぶ。領域「環境」の観点（周囲の様々な環境に好奇心や探究心を持って関わり、それらを生活に取り入れていこうとする力を養う）から指導案を作成し、発表する。
事前学習及び事後学習
幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の領域「環境」を読み込む。各回の授業内容に該当するテキストの部分を熟読するとともに配布された資料に目を通し、要点をまとめる。図書館やインターネットで関連文献に目を通す。（各回授業の予習・復習時間は60分）
授業計画
1：幼稚園教育および保育所における教育の基本と領域「環境」の構造
2：領域「環境」のねらいと内容
3：領域「環境」の内容（１～４）と指導上の留意点
4：領域「環境」の内容（５～７）と指導上の留意点
5：領域「環境」の内容（８～１１）と指導上の留意点
6：幼稚園教育および保育所での教育における評価と領域「環境」
7：領域「環境」と小学校科目とのつながり
8：幼児の発達・学びを意識した領域「環境」の観点からの保育構想
9：領域「環境」のねらい達成に向けたICT機器の活用法
10：領域「環境」のねらい・内容を考慮した指導案の作成
11：模擬保育Ⅰ（作成した指導案による実践、グループワーク）
12：模擬保育Ⅱ（作成した指導案による実践、グループワーク）
13：模擬保育の振り返り
14：教材研究　身近な自然にかかわる保育実践
15：教材研究　身近な事象・地域社会にかかわる保育実践
定期試験　実施する

学生に対する評価
定期試験：50%、レポート：30%、グループ発表の内容：20%
テキスト
内閣府・文科省・厚労省、『平成29年告示　幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領＜原本＞』、チャイルド本社、2017年、540円 田尻由美子・無藤隆（編）、『保育内容　子どもと環境　―基本と実践事例―』、同文書院、2010年、2376円
参考書・参考資料など
授業中に適宜プリントを配布する。

授業科目名:言葉（指導法）	開講時期：2年・前期	授業区分：卒業必修
担当者名：准教授　皆川　晶	授業形態：演習	授業回数：15回
授業コード：261	単位数：1単位	オフィスアワー：水曜日5限目
ナンバリング：DH23204	該当DP：1-②、2-③	

授業の到達目標及びテーマ
・領域「言葉」に関する保育内容を理解し、子どもが経験し身につけていく内容と指導上の留意点を理解する。 ・子どもの発達を視野に入れた保育構想を展開するために必要な知識や技術を実践的に習得する。 ・現代的課題や保育実践の動向を知り、子どもの生活と遊びにおける言葉の世界を豊かにする知識や技術を習得する。
授業の概要
領域「言葉」のねらい及び内容の意義について学習する。子どもの心身の発達や学びの過程について理解を深め、領域「言葉」に関わる具体的な指導場面を想定した保育を構想する方法を学習する。
事前学習及び事後学習
『幼稚園教育要領』『保育所保育指針』の領域「言葉」を熟読すること。授業内容について復習すること。（各回授業の予習・復習時間は60分）
授業計画
1 幼稚園教育要領における幼稚園教育の基本
2 領域「言葉」のねらい及び内容の考え方
3 領域「言葉」の内容（1～4）と指導上の留意点
4 領域「言葉」の内容（5～8）と指導上の留意点
5 領域「言葉」の内容（9～10）と指導上の留意点
6 幼稚園教育における理解と評価
7 幼稚園生活の経験と小学校以降の生活や学習との関連
8 幼児の発達を踏まえた教材研究（言葉遊び）
9 幼児の発達を踏まえた教材研究（絵本・紙芝居）
10 模擬保育の構想とICT活用の理解
11 模擬保育のための指導案作成
12 模擬保育の実践
13 模擬保育の振り返り
14 配慮を要する子どもの言葉と支援
15 多文化理解と言葉
定期試験　実施する

学生に対する評価
定期試験：60%、レポート：20%、発表：20%
テキスト
内閣府・文科省・厚労省、『平成29年告示　幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領＜原本＞』、チャイルド本社、2017年、540円
参考書・参考資料など
厚生労働省、『保育所保育指針解説書（平成30年）』、フレーベル社、2018年、346円

授業科目名:造形表現(指導法)	開講時期：2年・前期	授業区分：卒業必修
担当者名：准教授　竹永亜矢・非常勤講師　塙　和道	授業形態：演習	授業回数：15回
授業コード：262	単位数：1単位	オフィスアワー：水曜日5限目
ナンバリング：DH23205	該当DP：1-③、2-③、3-④	

授業の到達目標及びテーマ

幼児園教育および保育所保育において、育みたい資質・能力を理解し、幼稚園教育要領・保育所保育指針に示された「表現」のねらい及び内容について背景となる造形表現と関連させて理解を深めるとともに、幼児の発達に即して、主体的・対話的で深い学びが実現する過程を踏まえて具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身に付ける。

授業の概要

・幼稚園教育要領、保育所保育指針に示された幼稚園教育、保育内容の基本、表現領域のねらい及び内容を理論と実践を通して理解する。
・造形表現、劇の創作と発表活動(表現)を通し、楽しく造形できる技法、身近な素材から教材への応用など、常に他分野と共存する幼児の生活を学び、具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法と、造形表現の基礎教養を各課題と制作体験、レポート、感想文、資料配布と定期試験を行う事で教授します。

事前学習及び事後学習

・前回授業で示された事前学習、準備を行う。日頃より、子どもの絵や造形作品に興味関心を持ち、印象に残る点は記録する。
・授業で取り組んだ課題を反復学習し、課題のプロセスとポイントを記録する。
(各回授業の予習・復習時間は60分)

授業計画

1 オリエンテーション・幼児園教育、保育内容の基本、「表現」領域のねらいと内容の全体構造の理解

2 「表現」領域のねらい及び内容、幼児が経験し身に付けていく造形活動の内容と指導上の留意点の理解

3 幼稚園教育・保育所保育における評価の理解

4 「表現」領域において幼児が経験する造形活動内容と小学校の教科等とのつながりの理解

5 幼児の認識・思考、動き等を視野に入れた表現領域における保育構想の重要性と理解

6 子どもの造形活動「表現」領域の特性、幼児の体験との関連を考慮した保育における情報機器及び教材の活用法

7 指導案の構成、具体的な保育を想定した指導案内容と作成の理解

8 子どもの造形活動　模擬保育とその振り返り、保育を改善する視点への理解

9 子どもの造形活動　「表現」領域の特性に応じた保育実践の動向と保育構想の向上への取り組みと理解

10 教材研究「造形と表現－1玩具と劇」身近な素材で人形制作（基本形・身近な素材）

11 教材研究「造形と表現－2玩具と劇」人形制作仕上げ（装飾・教材の応用）

12 「造形と表現－3玩具と劇」人形劇のシナリオを作る（共同創作）

13 「造形と表現－4玩具と劇」劇の創作と演技（共同創作）

14 「造形と表現－5玩具と劇」人形劇発表（設備の活用・共同発表）

15 「造形と表現－6玩具と劇」まとめと振り返り「造形表現体験」素材と技法の活用 まとめと振り返り

定期試験　実施する

学生に対する評価

講義ごとの課題・提出物：80%、定期試験：20%

テキスト

・近畿大学九州短期大学通信部、『図画工作』、近畿大学九州短期大学、2019年、500円
・内閣府・文科省・厚労省、『平成29年告示　幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領＜原本＞』、チャイルド本社、2017年、540円
・適宜参考資料を配布する

参考書・参考資料など

・ローダ・ケロッグ、『児童画の発達過程－なぐり描きからピクチュアヘー』、黎明書房、1998年

・竹永亜矢・塙和道、『近畿大学九州短期大学　研究紀要第48号』「美術表現研究講義　幼児表象画　描画の発達と特徴」（p38-53）、近畿大学九州短期大学、2018年

・塙 和道・竹永亜矢『近畿大学九州短期大学　研究紀要第48号』「えのぐをもちいた心理的4原色による色あそびー援助者の色彩理解のためにー」（p136-143）、近畿大学九州短期大学、2018年

・岡野千晴・竹永亜矢・塙 和道、『近畿大学九州短期大学　研究紀要第47号』「身近な素材で作る　演習講義　コラージュ指導法」（p178-190）、近畿大学九州短期大学、2017

・宮武辰夫、『幼児の絵は生活している』、博文社、1985年、2700円

・林建造、『保育の中の造形表現』、サクラクレパス出版、1992年、3456円

・鳥居昭美、『こどもの絵をダメにしていませんか？』、大月書店　2004年、1620円

・無藤隆（監修）、『事例で学ぶ保育内容領域「表現」』、萌文書店、 2007年、2160円

授業科目名:音楽表現（指導法）	開講時期：1年・後期	授業区分：卒業必修
担当者名：准教授　平松愛子	授業形態：演習	授業回数：15回
授業コード：263	単位数：1単位	オフィスアワー：授業終了後
ナンバリング：DH23206	該当DP：1-②③、2-②③	

授業の到達目標及びテーマ
幼稚園教育・保育の領域「表現」に関する「ねらい」及び「内容」、全体構造を理解する。乳児保育の3つの視点及び5つの領域を踏まえ、音楽表現の観点から子どもの発達や学びの過程を理解し、実践的な指導法を身につけるために必要な基礎的な知識、技能を習得する。
授業の概要
「表現」領域の中核的な保育内容である「表現あそび」の中から、音楽表現に関する「あそび」について、子どもの実態や状況に即した保育者の指導・援助の在り方、保育を展開していくための方法や技術を具体的に学ぶ。
事前学習及び事後学習
事前にテキストに目を通しておくこと。授業後に内容を復習し、課題作成や発表練習をおこなうこと。 （各回授業の予習・復習時間は60分）
授業計画
1 オリエンテーション、教育要領、保育指針における領域「表現」
2 幼児と音楽との関わり、幼児への指導法、保育者の指導上の留意点
3 幼児の理解と評価
4 音楽表現あそび-わらべうたあそび-
5 音楽表現あそび-手を使ったうたあそび-
6 音楽表現あそび-食べ物が出てくるうたあそび、動物がでてくるうたあそび-
7 音楽表現あそび-からだを使ったうたあそび-
8 音楽表現あそびの教材研究及び情報機器を活用した教材研究
9 表現あそびの指導計画
10 表現あそびの指導案の作成
11 模擬保育発表及び指導・援助についての振り返り①1～3班
12 模擬保育発表及び指導・援助についての振り返り②4～6班
13 模擬保育発表及び指導・援助についての振り返り③7～9班
14 小学校音楽の授業につながる音楽あそび（歌かるたあそび）
15 様々な素材を使った音楽あそび（音作りあそび、音描きあそび、音ことばあそび）
定期試験　実施しない

学生に対する評価
模擬授業の発表内容：20%、指導計画の記述内容：15%、ミニテスト：50%、その他の課題の記述内容：15%
テキスト
木村鈴代・平松愛子他、『新たのしい子どものうたあそび-現場で活かせる保育実践-』、同文書院、2017年、2376円 内閣府・文科省・厚労省、『平成29年告示　幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領＜原本＞』、チャイルド本社、2017年、540円
参考書・参考資料など

授業科目名：劇あそび（指導法）	開講時期：2年・後期	授業区分：幼免必修
担当者名：教授　久世安俊	授業形態：演習	授業回数：15回
授業コード：264	単位数：1単位	オフィスアワー：金曜日5限目
ナンバリング：DH33207	該当DP：1-②③、2-②③、3-②	

授業の到達目標及びテーマ
領域「表現」の「ねらい」「内容」について理解する。子どもの発達に即した遊びの過程を理解し、どのような援助が必要か考えることができる。子どもの表現を育てうる実践力と指導法、また表現活動のプロセスを理解し指導計画を作成することができる。
授業の概要
領域「表現」を観点に、発達段階に応じた子どもの遊び（ごっこ、劇あそび）の内容と意義について学習する。伴う表現活動（歌う、演奏する、踊るなど）の演習課題を通し、感じたり、考えたり、想像したり、創造する力を養う。
事前学習及び事後学習
幼稚園教育要領・保育所保育指針の領域「表現」部分をしっかり読み込む。 授業中に提示された課題をまとめる。 生活の中で表現されているもの[音、形、色、手触り、動きなど]に関心を持つ。（各回授業の予習・復習時間は60分）
授業計画
1 領域「表現」の観点
2 幼稚園教育要領・保育指針における領域「表現」のねらいと内容
3 身ぶり表現の意義と発達：0歳児～2歳児
4 身ぶり表現の発達：3歳児・4歳児
5 身ぶり表現の発達：5歳児
6 身ぶり表現活動の発展と指導法・活動評価の考え方
7 「劇あそび」の意義と役割・小学校教育へのつながりを踏まえて
8 「劇あそび」における観点（イメージの実現、環境の設定、人との関わり）
9　幼児の音楽表現①教材研究（子どもと音楽、保育現場での音楽）
10 幼児の音楽表現②教材研究（情報機器を活用して）
11 「劇あそび」の指導計画立案の要点（課題説明）
12 「劇あそび」の指導案の作成
13 「劇あそび」の創作と模擬保育
14 模擬保育の振り返り
15 まとめ　表現を育てる保育とは（「劇あそび」事例から）
定期試験　実施しない

学生に対する評価
授業中に提出する課題：40%、実技発表：30%、レポート課題：30%
テキスト
適宜資料を配布する。
参考書・参考資料など
内閣府・文科省・厚労省、『平成29年告示　幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領＜原本＞』、チャイルド本社、2017年、540円

授業科目名: 教育課程総論	開講時期：2年・前期	授業区分：幼免・保育士必修
担当者名：教授　三木一司	授業形態：講義	授業回数：15回
授業コード：265	単位数：2単位	オフィスアワー：火曜日5限目
ナンバリング：DH23305	該当DP：1-③、2-③	

授業の到達目標及びテーマ
幼稚園及び保育所における教職課程や保育課程の役割や意義について理解する。 教育・保育課程及び指導計画についての基本原理とその編成及び作成の方法について理解する。 カリキュラム・マネジメントについての意義を理解する。
授業の概要
教育・保育課程及び指導計画の基本的な考え方を理解した上で、それらの編成及び作成の基本原理と方法論に関する知識を深め、カリキュラム・マネジメントの意義を理解する。
事前学習及び事後学習
保育内容に関する理解と実践上の課題を整理しておく。 学修した内容のポイントを確認し、指導計画作成の理解を深める。（各回授業の予習・復習時間は60分）
授業計画
1 幼稚園教育要領・保育所保育指針の法的意義
2 幼稚園教育要領・保育所保育指針の歴史的変遷
3 教育課程・保育課程編成の基本的な考え方
4 教育課程・保育課程と領域の捉え方
5 教育課程・保育課程における子どものすがた
6 指導計画作成の基本的な考え方
7 指導計画と領域・子どもの捉え方
8 短期の指導計画作成の視点と留意点
9 短期の指導計画の実践例の検討
10 長期の指導計画作成の視点と留意点
11 長期の指導計画の実践例の検討
12 教育リソースのファイリング
13 カリキュラム・マネジメントの重要性
14 授業改善と評価
15 子ども理解と指導要録
定期試験　実施する

学生に対する評価
定期試験：70%、指導計画作成：30%
テキスト
特に指定しない。
参考書・参考資料など
内閣府・文科省・厚労省、『平成29年告示　幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領＜原本＞』、チャイルド本社、2017年、540円 授業中に適宜資料を配付し、参考図書を紹介する。

授業科目名:教育方法論	開講時期：2年・前期	授業区分：幼免必修
担当者名：准教授　垂見直樹	授業形態：講義	授業回数：15回
授業コード：266	単位数：2単位	オフィスアワー：月曜日5限目
ナンバリング：DH23401	該当DP：1-②、2-②	

授業の到達目標及びテーマ
①乳幼児期の教育方法の基本原理を理解し、説明できる。 ②①を踏まえ、遊びを通した具体的な実践を計画できる。 ③子どもの意欲を高める保育者の関わりの必要性を理解し、実践に活かすことができる。
授業の概要
乳幼児期の教育の基本原理の理解に重要なテーマについて理解し、子どもたちにとって魅力的な教育活動を計画・実践するための知識と技術を習得する。
事前学習及び事後学習
毎回テキストの指定箇所を読んでくること。また、配布資料を含め復習すること。その際、授業内容を保育者としてどのように活かせるのかについて検討することで、定期試験に必要な視点が得られる。（各回授業の予習・復習時間は60分）
授業計画
1 教育方法論で何を学ぶか―学習の見取り図
2 乳幼児期の教育は子どもたちの何を育てるのか？―認知能力と非認知能力―
3 一斉教授と経験的カリキュラムー効用と問題点、乳幼児期の教育の特徴
4 乳幼児期の教育方法のキーワード①―「遊び」について
5 乳幼児期の教育方法のキーワード②―「環境」について
6 主体的・対話的で深い学びの基本
7 主体的・対話的で深い学びと乳幼児期の教育
8 子どもの意欲を高める保育者の関わり①―保育者の子どもへの関わり方
9 子どもの意欲を高める保育者の関わり②―活動における導入・展開・まとめ
10 教育の評価―乳幼児の育ちをみる視点と改善
11 設定保育指導案の作成
12 設定保育指導案の自己評価と改善
13 乳幼児期の教育における情報機器の活用①－リテラシーとモラル
14 乳幼児期の教育における情報機器の活用②－教材の作成
15 半期の振り返りとポートフォリオの整理
定期試験　実施する

学生に対する評価
レポート等課題：20%、定期試験：80%
テキスト
田中統治他、『新しい時代の教育方法〈改訂版〉』、有斐閣アルマ、2019年、1944円
参考書・参考資料など
文部科学省、『幼稚園教育要領解説』、フレーベル館、2018年、240円

授業科目名:幼児と人間関係	開講時期：1年・前期	授業区分：卒業必修
担当者名：准教授　垂見直樹	授業形態：演習	授業回数：15回
授業コード：267	単位数：1単位	オフィスアワー：月曜日5限目
ナンバリング：DH13102	該当DP：1-②③、2-③	

授業の到達目標及びテーマ
授業の到達目標及びテーマ ①幼児を取り巻く人間関係の現状を把握し、支援が必要なポイントを理解する。 ②子どものライフコースにおける人と関わる力の重要性を理解する。 ③子どもの自律性と集団のなかでの育ちについて理解し、支え合う仲間集団の条件を理解する。
授業の概要
領域「人間関係」に関する知識を得、子ども個人の成長と、仲間集団の成長との双方に配慮しながら具体的な指導を行う実践力の基礎を培う。子どもを取り巻く社会背景（家庭・地域を中心に）を捉え、それらの環境が子どもの資質・能力にどのような影響を及ぼすかについて考える。それらの過程で、保育者として適切なかかわりを検討する。
事前学習及び事後学習
毎回、予習課題を指定するので、授業の前に取り組んでおくこと。復習は、配布資料を中心に復習すること。（各回授業の予習・復習時間は60分）
授業計画
1 「幼児と人間関係」で何を学ぶか
2 「人と関わる力」と子どもの成長
3 現在の自分を取り巻く人間関係を整理する
4 地域社会の変容－戦後～高度成長期
5 地域社会の現状－都市化・個人化・地域の自治組織
6 家庭環境の変容－核家族化としつけ
7 家庭環境の現状－家庭支援の必要性
8 発達過程に応じた人との関わり①－乳児期を中心に
9 発達過程に応じた人との関わり②－幼児期を中心に
10 仲間集団と道徳性の育ち①－おともだちと共に過ごすことの良さを感じる
11 仲間集団と道徳性の育ち②－多様性・共生・寛容の考え方
12 子どもが自己表現できる集団づくり―保育者の関わり方の基礎
13 集団のなかでの「特別な支援」－ジレンマを越えるには
14 保育者との信頼関係
15 地域社会の人々との交流
定期試験　実施しない

学生に対する評価
レポート課題等：50%、学期末レポート：50%
テキスト
内閣府・文科省・厚労省、『平成29年告示　幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領＜原本＞』、チャイルド本社、2017年、540円
参考書・参考資料など

授業科目名:幼児と環境	開講時期：1年・前期	授業区分：卒業必修
担当者名：准教授　髙木義栄	授業形態：演習	授業回数：15回
授業コード：268	単位数：1単位	オフィスアワー：火曜日5限目
ナンバリング：DH13103	該当DP：1-②、2-②③、3-②	

授業の到達目標及びテーマ
幼児教育の基本（日常生活で出会うものに関心を持ち、関わり、馴染み、理解する）及び幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領における領域「環境」の観点から、自然環境や社会環境などの具体的生活体験を重視した保育、特に子どもの自然との関わりを深める保育を自ら設定して実践的に指導できる。様々な事象の観察を通して、観察力・集中力を修得する。
授業の概要
幼児教育の基本（日常生活で出会うものに関心を持ち、関わり、馴染み、理解する）及び幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領における領域「環境」のねらいと内容について理解するとともに、具体的生活体験を重視した保育指導力育成のための実践的授業や環境教育を視野に入れた授業を実施する。動物園実習及びその他の実践を通して、命の大切さを学ぶとともに観察力を向上させることで子ども一人一人の発達の特性に応じた総合的な指導力を養う。
事前学習及び事後学習
幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の領域「環境」を読み込む。図書館やインターネットで関連文献に目を通し、自然環境や社会環境などに関わる実践的な活動や遊びについて情報を収集する。普段の生活の中で周囲の自然に目を向け、観察する習慣をつける。（各回授業の予習・復習時間は60分）
授業計画
1 幼児教育の基本、幼児を取り巻く環境、領域「環境」のねらいと内容
2 身近な自然に触れる（公園への散歩）
3 生き物アンケート
4 ひまわり栽培（種まき、ひまわり日記）、生物にかかわる保育の指導案
5 動物園実習事前指導
6 動物園実習Ⅰ（福岡市動物園、グループワーク、サル山での観察）
7 動物園実習Ⅱ（福岡市動物園、グループワーク、様々な動物の観察）
8 動物園実習事後指導、振り返りとグループ発表
9 ゴミを利用した工作、行事の振り返りと指導案
10 科学あそびⅠ（科学あそびについて、風船を使ったあそび、グループワーク）
11 科学あそびⅡ（ドロダンゴづくり）
12 科学あそびⅢ（シャボン玉あそび、グループワーク）
13 街なか探検（標識探し、グループワーク）
14 地域の行事について調べる（グループワーク）
15 現在の子ども達に自然体験をさせるには
定期試験　実施しない

学生に対する評価
レポート：40%、ひまわり日記：40%、その他の課題提出物：20%
テキスト
授業中に適宜プリントを配布する。
参考書・参考資料など
内閣府・文科省・厚労省、『平成29年告示　幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領＜原本＞』、チャイルド本社、2017年、540円 田尻由美子・無藤隆（編）、『保育内容　子どもと環境　―基本と実践事例―』、同文書院、2010年、2376円

授業科目名: 幼児への特別な支援	開講時期：2年・後期	授業区分：幼免必修
担当者名：准教授　橋本　翼・非常勤講師　勝浦眞仁	授業形態：演習	授業回数：15回
授業コード：269	単位数：1単位	オフィスアワー：火曜日5限目
ナンバリング：DH33304	該当DP：1-③、3-②	実務経験のある教員による科目

授業の到達目標及びテーマ
特別支援教育に関する理念や制度の仕組みを理解する。特別の支援を必要とする幼児の心身の発達と心理特性および学習の過程を理解し、支援方法について例示することができる。さらに個別の指導計画及び個別の教育支援計画について理解し、教師が関係機関・家庭と連携して支援体制を構築することの必要性を理解する。
授業の概要
特別支援教育に関する制度の仕組みについて学んだ後、各障がいを抱える幼児の発達や特性、教師の支援の方法について、事例を交えて学んでいく、また、個別の指導計画および個別の教育支援計画の作成の基礎的事項について学ぶ。さらに教師が他機関や家庭と連携して特別の支援を必要とする幼児を支援する際の留意点について学ぶ。
事前学習及び事後学習
・事前学習は障がいに関するニュースやテレビ番組などに触れることを通し、幼児への特別な支援への理解を深める。 ・各授業で学んだ内容をもとにレポートを作成し、自分なりの幼児への特別な支援のあり方を考える。 （各回授業の予習・復習時間は60分）
授業計画
1 幼児期における特別支援教育の制度と理念
2 乳幼児期の発達的問題
3 発達障害児の理解と幼児教育の現場における支援1：自閉症スペクトラム障害
4 発達障害児の理解と幼児教育の現場における支援2：ADHD
5 発達障害児の理解と幼児教育の現場における支援3：LD、発達性協調運動障害
6 知的障害児の理解と幼児教育の現場における支援
7 肢体不自由児の理解と幼児教育の現場における支援
8 視覚障害児の理解と幼児教育の現場における支援
9 聴覚障害児の理解と幼児教育の現場における支援
10 特別の支援を必要とする幼児の個別の指導計画と個別の教育支援計画の作成
11 就学に向けて：小学校における特別支援教育と幼保小連携
12 他機関との連携
13 家庭との連携1：特別の支援を必要とする幼児の保護者への支援
14 家庭との連携2：保護者への支援の実際
15 母国語や貧困等の問題を抱えた特別の教育的ニーズのある幼児の理解と対応に関して
定期試験　実施する

学生に対する評価
毎回授業後に提出する小レポート：20%、課題レポート：20%、定期試験：60%
テキスト
内閣府・文科省・厚労省、『平成29年告示　幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領＜原本＞』、チャイルド本社、2017年、540円
参考書・参考資料など
尾﨑康子・小林真・水内豊和・阿部美穂子（編）、『よくわかる障害児保育　第2版』、ミネルヴァ書房、2018年、2700円